

聖徒の道

10

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第9巻第10号 1965年10月1日発行

SEITO-NO-MICHI



聖徒の道

第9巻
第10号

1965年 10月号

476	デビッド・O・マッケイ	女性の領分
	女性の影響が感じられなければならない三つの領分	
480	A・小松義雄	
	みなさんがしんこうせいかつに、なにかもんだいがありましたらえんりょなくそうだんしてください。	
482	ナタン・E・タナー	家庭の影響
	—— 訳 渡部正雄 ——	
	現代社会にしめる扶助協会の役割 シンニングマザーズ他	
493	ジョセフ・F・スミス	質疑応答
	—— 訳 渡部正雄 ——	
	復活体は如何なる形をもって墓からでてくるか	
496	ウィリアムス・リー・ストークス	はじめに
	—— 訳 渡部正雄 ——	
	科学と宗教についての一考察	
503	渡部正雄	小松伝道部長さんとハワイの王様
	ハワイ王朝に伝わる王朝秘話	
508	佐藤竜猪	奈智江ツネ姉妹のあとを訪ねて
	モルモンの信仰生活をハワイで実践した日本女性の話	
511	小林都代子	あかし
	信州松本に咲いた信仰の灯	
515	投稿	主の御業に血を流す
	雄々しく試練に打ち克つ兄弟の近況	
518	伝道本部だより	バプテスマ
520	支部だより	読者のページ
523	えいごのページ	



大管長 デビド・O・マッケイ

人々が福音に従うとき、人類の間にまことの兄弟愛と友情とがはぐくまれることを知っており、また律法といるいろいろな儀式に従うことによって一層善良な市民になることを知っている。

彼らが日常の行ないを経て彼らの職業に宗教を実践するとき、福音のまことであることがその生活の中で証明されるようになるのである。

女性の領分

大管長 デビッド・O・マツケイ

私たちは移り変わる世の中に生活しております。そしてそれがあまり身近かな為、多くの人はそれに気がつかずに過しております。私は一九六三年八月にウエールスにおける私の母親の誕生地の教会堂の献堂式に行った時、交通機関の相違にそれを知りました。六十六年前に私は蒸気船で、大英国に渡りました。私の記憶ではフィラデルフィヤから約七日半かかりました。二年前の丁度今月、私は、この同じ距離を、六時間半で旅しました。この六十六年間の進歩と変化は、何と大きなことでありましょうか。

この三分の二世紀の間の変化の一つは、女性の状態であります。女性が文学、科学、芸術、経済社会の各分野に進出し、学問をし進歩し女性の本領を発揮し世の向上に貢献する如何なる活動に参加することにも別に問題はありません。けれども私は常に女性の影響が感じられねばならない三つの領域又は領分があることを知っております。どんな変化が起ろうともこの三つの領分は、美と徳と、女性の英知をもって充たされておらねばなりません。第一は家庭建設の領域であります。その次は教育の領域であります。三番目は情け深い奉仕の領域であります。家庭生活が性格の形成に大きな影響を持っていることは申すまでもありません。そこには一寸注意を喚起しただけで自然と心がなびくある信頼感があります。すべてのことは忘れてしまいますが子供の時に経験したことは、はつきりと記憶に

残るのであります。

今日の若い女性の最高の徳は、私たちの母親、祖母、又は広野を渡った曾祖母たちの場合と同様に結婚及び家庭建設に表現される愛でありそれは精神的なものであります。

今日世界で最も必要としているものは知的良心的な母性愛であります。人類の福祉及び幸福に貢献する基本的な徳の育成は、これを家庭に求めねばなりません。

女性には理知的で清浄でなければなりません。何となればそれは人道の川の流れ出る生きた生命の泉だからであります。喫煙したり、有毒な薬品で避妊したりしてこの流れを汚す者は彼女の性に不忠実であり人種の強化と永続に敵対するものであります。

世の法律と神の言葉は共に父親及び母親たる者に、只純潔な自由な出生を子供に与えるばかりでなく信仰と義の内に訓練すべき責任をも課しております。彼らは々悔い改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えねばならず、教義と聖約には、これを教えずその模範にも示さすこの誠命を軽視した者は々罪その両親の頭に留るべしと申しております。(教義と聖約六八・二五)

今日諸国民の間に神への不信、条約の無視、個人的なことに、又市民的なこと、又国際的なことに不誠実の波が覆っているようです。これはジャングルの中では義とされるかも知れない規則又は律法への退歩であります。けれども教師としての感化を及ぼすのは、母親だけではありません。しばしば未婚の伯母さんが母親よりも大きな感化を及ぼすものであります。

フィリップス・ラッセルはラルフ・ウォルド・エマーソンに対するマリヤ・ムーディ・エマーソンの感化を次のように書いています。々彼女の働らきは希望に充ち、目立たぬように犠牲をし、慎重に考慮し、甥や姪たちに大きな夢を持たせたのですが、歴史家又は伝

記家から殆んど注目されませんでした。未熟な甥や姪の教育者として共に生活し働らく機会を与えられましたが何ら称讃されることもなく彼女は死んで行ったのでした。

エマーソンの生涯を読む時、その伯母さんがこの病弱な少年をアメリカでも最大な思想家に育て上げるに如何に大きな感化を及ぼしたかがわかるでしょう。

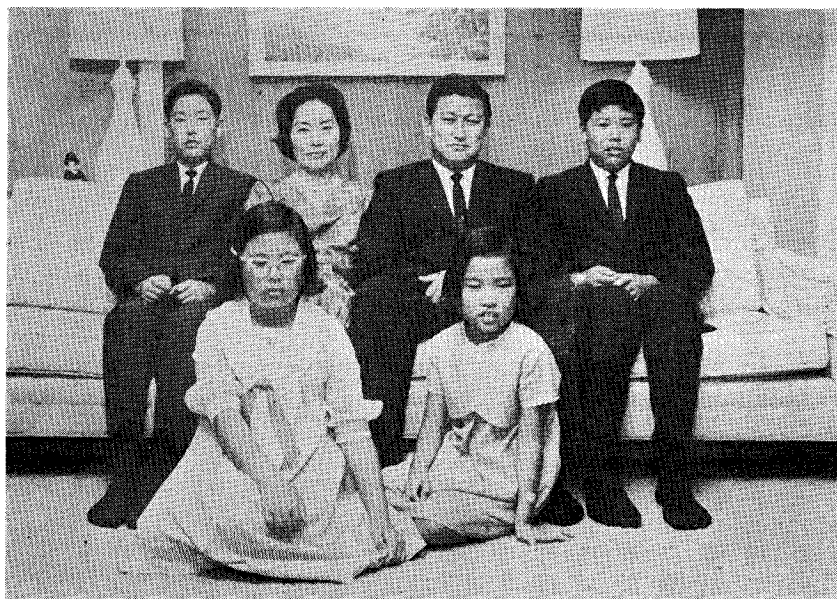
今私は教師としての若い女性について一言ふれたいと思います。もしも私たちの若い女性に彼女たちが十代の運命を形成し、左右する力を持っている立場にあることを自覚させることができたなら、社会上素晴らしいことであります。私はそれができるかどうか知りませんがヒントを与えましょう。十代の少女にとっての最大なる安全弁は、彼女の言葉と行為が社会を向上させるか、又は退歩させることに役立つかということを意識することにあります。即ち悪だくみのある青年の疑わしい誘惑から自分自身を守り、おぼれることなく毅然とすることによって彼女自身を女性たる尊厳を守ることにあります。彼女は誘惑者に対し自ら「如何なる男も愛する人を傷つけはしないでしよう」と答えることによってその尊厳を守ることができのです。このように女性はその若い時に彼女の天性及び高貴な召しをもつて惑わす者とならず教師となるのであります。母性愛及び教えることに次で女性には情ある奉仕の領域において最高の栄光に達するのであります。その最も印象的な例はルカによって告げられた歴史であります。〃ところがその最も病氣になつて死んだので、人々はそのからだを洗つて屋上の間に安置した。〃ルダはヨツパに近かつたので、弟子たちはペテロがルダにきていると聞き、ふたりの者を彼のもとにやつて「どうぞ、早くこちらにおいて下さい」と頼んだ。（今日旅行者の面白い経験はこの古い街を訪ねることです）〃そこでペテロは立つて、ふたりの者に連れられてきた。彼が着くとすぐ、屋上の間に案内された。すると、やもめたちがみんな彼のそばに寄つてきて、ドルカスが生つ

くつた下着や上着の数々を泣きながら見せるのであった。ペテロはみんなの者を外に出し、ひざまずいて祈った。それから死体の方に向けて「タビタよ、起きなさい」と言った。すると彼女は目をあげペテロを見て起きなおった。ペテロは彼女に手をかして立たせた。それから聖徒たちや、やもめたちを呼び入れて、彼女が生きかえっているのを見た。」「（使徒行伝九・三七―四一）このわずかな言葉の内に如何なる物語が告げられているでしょうか。この光景は古代の教会の女性が尽した奉仕の手助けの姿を物語っております。

今日国際間に世の中の傷ついた人、病人、瀕死の人に奉仕しようとする最も有力な機関として国際赤十字社があります。その恩恵の樹は今や全世界に、フローレンス・ナイチンゲールの愛と憐みの心から生じたその果実をふり注いでおります。

私は女性の領分は男性の領分と異っておりますが同様に重要であり広範であり、過去において男性のみの活動範囲と見なされていた多くの職業で女性の方が優つて来ていることを強調したいのです。女性が神と天性によつて定められた最も効果的な人類への奉仕と祝福の分野において、よく用いられ尊敬されている時に人類の生活に最大なる調和と幸福が見られるでありましょう。私は女性のために三つの領分を挙げました。この他にもまだ多くありますが男性がこれらの領分における女性をより尊重するならば、全世界を通じて男性女性子供たちが、より幸福となるでありましょう。

人生において真の男らしさより立派なものはなく又真の女らしさより清らかなものはないのであります。美しく控え目で優しい女性は創造の傑作であります。これらの徳に加えて女性がその生活において導きの星として正義と神性をその身につけているなら、そして他人を幸福にしたいという念にかられているなら、誰も彼女が真に偉大なる人と数えられることを疑わないであります。



雄義松小 メッセージ部長道伝

愛する兄弟姉妹の皆さん

着任以来約四週間にわたりまして、私と小松姉妹は、南は福岡北は北海道迄旅して各地の大会に出席し、皆さんに親しくお逢いして誠に多忙な素晴らしい日々を過しました。

皆さんにお目にかかり、この日本において教会が発展して行く様を眼の辺りに見ましたことは、ほんとに私たちにとって大きな特権であり、祝福でありました。各支部の会員たち、特に今回ハワイを訪問された会員たちが述べられた強い証はほんとに私たちの証を強めました。今度の私たちの旅行に際して、日本の会員の皆様が私たちに示して下さいた多くの御親切に対して心から感謝致します。まだ私たちは着任してから、わずか五週間にしかなりませんが、心から皆さんに親しみと愛を覚えるようになって来ました。また皆さんの愛に感謝している次第であります。皆さんのお蔭で、私たちの任務は誠に楽しいものとなり、私たちはこの偉大な光栄と特権に対し私たちの天父に感謝しきれないのであります。今度の私たちの日本国内旅行でハワイでお目にかかった方々以外にも、まだまだ大勢の兄弟姉妹がおられるのを知ってまた始めてお逢いして、ほんとに嬉しかったです。

わたくしのせんぞもまたわたくしのつまのせんぞも、日本人で皆さんのせんぞとおなじく日本にすんでいたのです。ですからみなさんとしんせきであるかもわかりませ

ん。たぶんけいずをしらべたらそのことがだんだんわかってくるとおもいます。私は十九年まえにいちどぐんたいで日本にきたことがあります。けれどもつまは日本語は私よりじょうずですが、こどもたちはぜんぜんできません。ですからみなさんがいろいろたすけてくださるようにおねがいます。十九年ぶりです。日本はよくしんぼしており、きいるのにおどろきました。日本はよくしんぼしており、きようかいもまたよくはってんしてありますのでうれしくおもいます。私はハワイでかんとくをしておりましたが、こんどでんどうぶちようにめされて、たいへんおどろきまたかんしゃしました。まだ日本語がじゅうぶんにでませんので、みなさんのおたすけをおねがいたします。これからできるだけくしぶをまわってちよくせつ、みなさんといろいろおはなしたいとおもっております。みなさんがしんこうせいかつに、なにかもんだいがありましたらえんりよなくそうだんしてください。できるだけおてつだいしたいとおもっています。

日本人はひじょうにしゅうきようてきなみんぞくで、またせんぞをうやまうたみであるときいておりますが、一おくにちかいひとがいるのにイエス・キリストをしっている人は、ほんのすこししかおりません。それですからほんとうにすぐわれている人はまだまだ、わずか一ぶにすぎませ

ん。とうきようのじんこうが一せんまんとして今、とうきようちくでかっぱっなかいじんが一せんにとすると、一まんになん一人となります。みなさんは一まんにんのだいひょうしゃです。また一まんにんのひとにふくいんをおしえるせきにんがあるのです。こんどみなさんのしどうしゃのふぶのひとがハワイのしんでんに入られあかしをつよくしてかえってこられたことは、これからのでんどうぶのはってんのためにたいへんやくにたつとおもいます。いま日本に八千にんいじようのしんじゃがいますが、一人が一年に一人のかいしゅうしゃをつくると一年に一万にんのしんじゃがふえます。そうすると日本にもワードブステーキぶができましたんでんもできるようになるでしょう。こんどのしんでんほうもんでわずかに干にんいじようのせんぞがすぐわれましたが、まだまだほとんどのせんぞはすぐわれておりません。にほんにもしんでんがひつようです。

私たち日本にすむきようだいしまいとくにこんどハワイにいったしどうしやたちは、すぐわれたこのこうふくをたにんにもわけあたえるためにまだすぐわれないないおおくのにほんじんにふくいんをおしえるために一しようけんめいはたらくべきであります。ひとりでもおおくのかいしゅうしゃをつくるためまた、せんぞをすくうためにみなさんとともに一しようけんめいはたらかたいとおもっております。

家庭の影響



副 管 長

ナタン・E・タナー

(一九六四年九月三十日、扶協例年大会の一般大会に於ける話)

愛する兄弟姉妹の皆さん。今私は心からへりくだって、主のみたまが今迄この会を通じてあったと同様に私たちと共にあるように、祈っております。私はこの午後私たちの為に歌って下さったシンギング・マザーのコーラスにおめでとうと申し上げます。又私は今迄の愛すべきお話によって靈感されたことを感謝致します。この偉大なる扶協協会の大会に集った皆さんに大管長会からの挨拶と祝福をたずさえて来ましたことは私をけんそんにする経験ではありますが、同時にそれは誠に大きな特権であり又喜びであります。世界で最大な女性の組織の一人の指導者たち、何と靈感される光景でありましょうか？ そして皆さんは扶協協会の会員たちに又皆さんの助けを必要としてい

る人たちのために、また教会全体のために、何と素晴らしい働かしをされておられることでしょうか。実際において皆さんの影響力は全世界を通じて感じられます。

扶協協会の業績

皆さんは皆さんの扶協協会が神の予言者の靈感と指示によって組織されたことを常に思い出されるでしょう。皆さんの献身的な指導者、スパフォード姉妹、シャープ姉妹及びマドセン姉妹は今日の愛すべき靈感された予言者の指示の下に仕事をしております。皆さんは一人残らずマッケイ大管長が如何に教会の母親たち及びその他すべての女性を愛し尊敬しておられるかを御存じでしょう。私は彼の声明の中から一つを引用致します。

美しく控え目で優しい女性は創造の傑作であります。これらの徳に加えて女性がその生活において導きの星として正義と神性をその身につけているなら、そして他人を幸福にしたいという念にかられているなら、誰も彼女が真に偉大なる人と教えられることを疑わないであります。

マッケイ大管長は真に神の予言者であり彼が皆さんを愛し毎日皆さんの成功と福祉を祈っておられることを知ることは如何に力強いことでありましょうか。また皆さんは皆さんの顧問や教会幹部及び大管長自身の協力によって、世界中の如何なる女性の組織も受けていない、神権の導きを持っているのであります。

この偉大なる組織の働らきと業績は年々顕著になりつつあります。私は私が自らよく知っている本年度の扶助協会の二つの眞の貢献と業績を参照したいと思います。(ザ・シンギング・マザーズ(母親合唱団))

第一には五月にニューヨーク市、ワルドールフ、アストリヤホテルで開かれたアメリカ母親委員会の褒賞午餐会の席上で歌ったザ・シンギング・マザーズであります。他の一つは、七月にニューヨーク世界博覧会で歌ったザ・シンギング・マザーズであります。タナー姉妹と私は、世界博のザ・シンギング・マザーズの音楽会に出席して深い感銘を受けたのであります。

実際に私たちは彼らと同じ教会に属していることに、大きな感激を覚えたのであります。人々は世界博を見に来たのではあります。が数千の人々が最後迄コーラスを聞くために残り閉会の時には立上って大喝采を送ったのであります。女性たちは豊感されていました。彼女たちは断食し、祈ったのです。彼女たちは彼女たちと共に在った主のみたまのおかげで、より美しく歌うことが出来たのであります。そして聴衆は主のみたまをよく感ずることが出来たのであります。

私は本日ここにスクラップ・ブックを携えておりますが、その中に四十の州に散在する三百七十二の新聞およびカナダから一つの新聞の切り抜きが含まれております。私はこれをここから皆さんに見せるわけには行きませんが、この偉大なる働らきが如何に全国を通じて感謝されたかを知り勇気づけられるものであります。

私たちは、これらのカリフォルニア及びその他の州の大新聞

が掲げている、このように大きなザ・シンギング・マザーズの写真を見ることが出来ます。ここにまた他の新聞のがあります。そしてこのスクラップ・ブック全部にあるのです。ここにまた世界博のモルモン館のために別な紙面をさいております。私はもっといろいろ他のものを示すことが出来ますが、皆さんはその場所からこれが見えないでしようが、それはザ・シンギング・マザーズが如何に全国を通じて深い感銘を与えたかを示すであります。

私がこのスクラップ・ブックを繰って行きます時に、カルフォルニア、インディアナ、マサチューセツ、ニュージャージー、ニューヨーク、ペンシルヴェニア、及びテキサスその他の州からの数々の記事を見出します。私はここに与えられた数字を統計にして立証するわけには行きませんが私は皆さんが、世の中の人々が私たちのシンギング・マザーズについて、どのように言っているか、また、各地でのその効果を知ってもらいたいと思うのであります。私は皆さんが世によく知られたこの偉大なる組織、ザ・シンギング・マザーズの働らきについて、どのように言われているかお知りになるために、これらを読んで見たいと思います。

一九六四年五月九日カナダ、トロント、テレグラムから、

誰一人飲酒喫煙する者もなく彼らは食物によって健康を保つように奨励されております。彼らはどのような服装をし、どのように起居動作すべきか世の人に如何に立派な模範を示すべきかを教えられておるのであります。……扶助協会の会員の指示によってモルモンの女性は彼女ら自身の衣服を作りファッション

シヨに提出したのであります。彼女らは大学級の最上の文学課程を勉強しております。更に彼らの言葉を借りるなら、「モルモン教の洗練力の下に私たちは私たちの内に存在する賜を成長させているのである」であります。

一九六四年五月十日のワシントン・ポストから、

今日このニューヨークの世界博でザ・シンギング・マザーズのコーラスをするために三月の始めから毎月曜日にコロンビヤ地区マリナランド及びヴァージニアから百二十名の女性が集まり、一秒の無駄もなくスケジュール通り毎月曜日三時間の合唱をしたのであります。

エレン・バーンズが指揮したのでありますが、彼は毎週月曜日以外をポストン、ニューヨーク、フィラデルフィアの各地を巡ってこの合唱団の他の部分である二百名の女性の下稽古を指揮したのであります。その女性の中には、百七十哩も遠方から参加している者もありました。

末日聖徒イエス・キリスト教会（モルモン）扶助協会の会員である女性たちは去る月曜日に、ここに貴方の御業をひろめるために宣教師団のように進みます。との祈りをもって始め、今日の宗教的、愛国的、一般的に人気のある歌のプログラムを練習したのであります。その中には、貴方の住居は何と気持よい処でしょう。貴方の貧しい者、疲れた者を私に下さい。貴方は決して一人で歩いていない。などが含まれています。バーンズ夫人は目のまわるようなスケジュールにもかかわらず非常に落付いた態度で、モルモン合唱団の特質は奉仕の精神でありますと称讃しました。

一九六四年五月三十一日、ポストン・サンディ・グローブから、

モルモン恵みの天使、と記された扶助協会はアメリカで最も古い女子国民の組織であります。それは百二十二年前に始められ現在、全世界に五千五百の支部を持ち五十二ヶ国に二十六万二千人の会員を有しております。

自ら進歩改善するため、また自己表現のための活動の一つとして歌う天使の合唱団は会員たちにモルモン教の大切な部門として、歌う真の喜びのために、を歌わせることが出来たのであります。

ニュートン・セクターからの扶助協会長ワード・C・ロー夫人はポストン合唱団を組織している三百人の母親の七十五パーセントは北東部出身の改宗者でありますと指摘しました。

世界博におけるザ・シンギング・マザーズの場合を報ずると共に報告者たちは、多くの教会の一般的情報、即ち会員数の統計、進歩の状況、及び伝道の働らき、目的、理想などを加えたのであります。それを少しばかり読んで見ましょう。

一九六四年マサチューセツ・クウイシーのパトリオット・レッジャーから。

この地域におけるモルモン宣教師の神と隣人に対する強い愛は人々の尊敬を得るようになりました。

ウエストンにおいてはわずか数年間にワード部が組織されましたが、二年間の間に百パーセントの成長が見られたのであります。

モルモン教徒たちは、シオンで非会員にアップビルするよう

な容易なことを提供しません。

それどころかかえって、自分の一、安息日を厳守すること、耐え忍ぶこと、及び教会に出席することなどは、ひかれるといふよりむしろ敬遠したくなるようです。

それに加えて非正統的にも現世の指導者を、主に召された予言者、として受け入れ、モルモン経を、神の言葉、として受け入れているのです。

にもかかわらずモルモンのワード部及び支部は毎週のスケジュールに躍進し、殆んどのプロテスタント、及び多くのローマ・カトリック教会の計画を凌いでいるのであります。

さて私は更に一九六四年五月九日のミネソタ・セントパウロのセイント・、パウロ・パイオニア・プレスを見てみましょう。

最も古い女性の組織であるモルモン教会の扶助協会の根本教義によれば母親の地位は家庭にあるのであります。セイント・パウロの二つの支部の会員たちは、その地位を、もつと興味あるものとし、母親としての経験を、もつと豊かなものとするために最善を尽しております。

さて私たちは、大新聞ニューヨーク・ヘラルド・トリビューンの一九六四年七月二日付の記事を見てみましょう。

。合唱したり、おいしい料理をつくったり、やさしく世話したりすることはすべてモルモン教会が女性に期待し計画しているところのものであります。

モルモン教会として知られる末日聖徒イエス・キリスト教会は百二十二年前に女性の扶助協会を組織し、そしてそれは今も

尚強力に進展しております。数日前にそれに関係する、モルモンのシンギング・マザーズが世界博のモルモン館で数々の合唱をしました。彼女たちは社会において皆専門の歌手ではありません。月に四回、毎週集って、どのようにパンを焼くか如何に赤やんをあやすかすべてのことを学んでいる会の一会員であります。

扶助協会会長のベル・スパフォード夫人は、家庭の時間に次のように説明しました。

もしも私がパンを焼くことに興味がないとしても、小さな娘の衣服の裏をつけてやれます。そこには常に何か私のために仕事があります。一枚の敷布にどの位の糸が要るか、またはより安い肉切れ、何か学ぶべきことがあります。それはまた新年度の目録に載っている世界文学の課程であるかも知れません。扶助協会で家庭芸術と他の芸術の結合は無限であります。最近の扶助協会雑誌に、エミリー・ディキンソンの職業はハウスキーパー、と題する記事が出ました。読者はハウスキーパーとして詩人であることに合点しないかも知れませんが、エミリー・ディキンソンのジンジャー・ブレッド（しやうがを加味した菓子パン）の作り方にもんくをつけることは出来ないでしょう。

まだまだ私は読んで行くことが出来ます。実際に私はまだ多くここに持っております。ユナイテッド・プレス・インタナショナルの婦人記者、ゲイ・パウレイは多くの新聞に掲載された同盟記事を書きました。その中から彼らは次のような見出しを選びました。お母さんたちは音楽を楽しむ、歌うお母さんたちは明るい心の持ち主、音楽は女性によく家庭によし。

彼女は記事の冒頭にスパフォード姉妹の言葉を引用して、歌は女性のためによく家庭のためによく、歌う女性は明るい心を持ち樂觀主義者であります」と述べております。

私はザ・シンギング・マザーズの合唱が如何に広く好評を得たかに興奮を覚えるものであります。現在スパフォード姉妹も扶助協会長として、女性の世界的組織の中にその影響を及ぼしているのであります。彼女はその組織で重要な地位を占めている女性たちから支持され尊敬されているのであります。この組織の運営者たちは扶助協会の高い標準と、その各会員及び全体に及ぼす効果とを自覚している世界の各地からの指導者を含んでおります。

アメリカ母の会の決議

さて私はワルドルフ・アストリアにおけるアメリカ母の会の会長ドロシー・ルイス夫人の署名した決議文をお読みしたいと思います。

一九六四年五月三日から八日迄の間にワルドルフ・アストリアで開かれたアメリカ母の会例年大会に末日聖徒イエス・キリスト教会扶助協会が非常な貢献をして成功に導いて下さいましたので母の会、委員一同は一九六四年、ワルドルフ・アストリアの報賞午餐会で素晴らしい靈感された発表を以て聴衆を感動させた。ニューヨーク・シンギング・マザーズに対し心からなる感謝の意を表することに決議しました。

私は世界放送協会会長のラルフ・ブレント氏がドロシー・ルイス夫人にあてた手紙（写はスパフォード姉妹に送られた）から引用したいと思ひます。

ワルドルフでの貴方の母の会の午餐会で、私は今日のアメリカ合衆国ですっかり希らしくなつてしまつた或何物かを見出ししました。私は数千の聴衆がしばしば忘れられまたは無視されている生活の或簡単な根本的なものに感激しているのを見ました。私たちの生活の表面を飾る見せかけがあまり厚すぎてなかなか下の方の実、迄届かないのであります。ザ・シンギング・マザーズが自由の女神の像の土台から取つたエマ・ラザラスの立派な言葉を歌つた時、私は私たちの内どれだけの人が、この国が貧しい人、疲れた人、風波に漂された人の国であることをもう信じなくなつていゝるであらうかと考えさせられました。この素晴らしい経験は、そこに在席した私たちをして再び信じるようにさせたのであります。それは繰り返し繰り返し信じねばなりません。アメリカに在在するすべての人がこの真のアメリカ精神を再び新に認識し合うべきであります。

それから彼は会長さんに向つて
ドロシー貴方は疑いもなくアメリカにおいて、また世界における偉大な女性の一人であります。私は貴方がたのアメリカ母の会の午餐会が如何に素晴らしいものであつたか言い現わすことも出来ません。私はどうしてそれを放送しなかったのだからかと不思議に思ひます。テープがございましたか？

扶助協会の影響

扶助協会がなしましたなさんとしてゐるすべての活動はすべて会員の一人々々が自分の本分を尽していることによって完成されてゐるのであります。実際においてこの教会の偉大な力の一つは会員一人々々の証と生活にあるのであります。ハンモッ

クをゆるする手は世界を動かす、という古い言葉がありますが確かに人の生涯の理想、態度、希望、成功を定めるのに最も大きな影響を与えるのは家庭生活であります。

私は皆さんの扶助協会事務所の献堂式の時のマッケイ大管長の話を引用したいと思います。

熱情に走りやすい青年時代に、この胸に残っている母親の声が誘惑の安全弁として再三証明されたのであります。その制止力は国家の法律の脅威よりも社会の批判よりも、また神の誠命を破る恐怖よりも大きいのであります。若い無鉄砲な時に青年はこれらの力の一つまたは全部に逆つて自分の熱情のほとばしるままに身を任せてしまうかも知れません。けれどもその危機に臨んで、その母親の信頼を思い、失敗した時の母親の悲しみを覚る時、その生涯を害いおぼれることから遠ざかる力を与えられるのであります。

単に母親ばかりでなく家庭全体の影響また同様に社会の影響力もあるのであります。誠に家庭は文明社会の基礎であります。ろばたで語られた言葉、また教えられた教義は帝国の運命の形成に影響するのであります。人間のすべての影響力の内、家庭の影響力が最も大きく作用するものであります。

その誉れと、高潔と、男らしき、指導力を純潔な心の持ち主である姉妹に負うている男性が多いためです（扶助協会誌一九五六年十二月号八〇五、八〇六頁）

今やこの優秀な組織の会員として、イスラエルの母親として妻として、また妻でも母でもない社会を構成する家庭の一員として皆さんは家庭及び社会生活を如何なる面においても模範的

なものとする素晴らしい機会と重い責任を持っているのであります。

私たちがとっている毎日の新聞や雑誌には驚くべき不良少年の無知野蛮乱暴ろうぜき謀叛などの記事があふれています。これらすべての原因は次のようであります。金があり過ぎる、ひまがあり過ぎる、退屈、不安、責任の欠如などであります。けれども家庭環境がその最も大きな原因であります。

青少年のためのホワイト・ハウスの会議報告の一つに少年犯罪の主な原因は家庭関係の欠陥及び不健全な家庭環境を指摘しております。更に報告は大人の悪い模範が飲酒、不誠実、及び犯罪の最悪の原因であることを強調しております。

J・エドガー・フーヴァーは大いに家庭の影響力を強調して両親に高い宗教的、道徳的生活標準を持つように訴えました。先日私はジョフリ、ルーシーの書いた、野生の若者たちは世界的に生じている問題である、という見出しの記事を読みました。彼は世界各地で起っている驚くべき例を挙げております。

彼は言っております。フランスでは四人の十五才の少女がそれぞれ紙片に声明書を書きました。一人は自殺すると他の一人は盗むと三人目の者はよくなると四人目の人は愛人を取ると、そして少女たちはくちをひき、数日後には各人はそれぞれ自分のひいたくちの約束を果たしたのであります。

彼は同様に英国では去年の春、八百人の無法者と四百人の彼らのガール・フレンドがスクーターとモーターサイクルでクラクトンに旅行し三日間にわたってその地方を荒し廻ったと報告しております。

ブラジルで十七才の少年がブラジルのリオデジャネロでただ何事が起るか見ようと思つて道路の信号にもかまわず全速力で自動車走らせたと、彼と十五才のガール・フレンドと死にましたがこれと衝突した他の車の運転手も同様に死にました。と語っております。

著者は大部分の蛮行及びすべての少年犯罪が大都会特に文明諸国に見られると言つております。彼は彼らが多額のお金を持っているにもかかわらず何の理想もなく学ぼうともしないことを指摘しております。彼らは何か壯觀な活動を計画してはびこつた倦怠心をまぎらわす以外に別に何ら目的はないのです。そこで彼らは物凄い勢力と熱情をほとばしらせて、お互に「やれやれ」と励まし合ふのです。

彼はこれらすべてを「よた者根性」と名づけ、それがだんだんと善良な子供たちの間にも浸透しつつあると言つております。何故彼らがこのようなことをするかとたずねられた時にその答えはいろいろでありましたがその中にはただ「面白いから」とか彼らのひまとお金で何かしたいからとか、或はイタリアの一少年は、自分のしたいことをどれだけ出来るかためて見たかったのだと説明しました。

その記事の中で著者は、そのような危険な反社会的行為、特に文明諸国においてそのようなよた者のはびこることを矯正することを考慮しております。

デンマークにおいては既に或進歩が見られ、少年犯罪や蛮行が或程度減少の傾向にあり、非常に心強く感ぜられる次第であります。若い人たちのためのいろいろな種類の活動が組織され

少年犯罪や無法に取つて代られつつあります。これらのプログラムは演劇、スポーツ、いろいろな種類の手芸、休日のために特に監督された余興及び学校の勉強を助ける家庭教師などであります。

教会の影響

私はこれを読んで、私たちの教会では若い人たちのための献身的な指導者の下に前述した、いろいろな活動の出来る組織を備えておりますか、これは何と幸運なことであらうか、また私たち両親として、また年長者としてこれらを支持し、若い人たちにこれらの活動の機会の特権を行使するように励ますことが如何に大切であるかを考えるのであります。

ノルウエーにおける蛮行の緩和は、多くの世界的に有名な彫刻品その他呼びものを蔵するフログナー公園を自発的に護衛しようとする、改心したよた者たちの奉仕を活用することに立脚しております。この目的のために選ばれた若者たちは、また同様に公衆プールを巡視し、また、市電に乗って、座席を傷ついたり、その他故意の蛮行を取締るのであります。これらの改心した不良児たちは違法にふけるように排戦されたように法の側に挑戦されているのであります。

討議の結論は特に重要で啓発されるものであります。即ちこれら実施された矯正法は単なる緩和策であつて、すべての国の社会事業家たちの間にこの野生的な若者たちの冒險的な活動の根本的な解決策は各家庭に求めねばならないということに意見が一致しているようであります。

同じ記事の中に青少年のためのエジンバラ公、報賞計画会長

ジョン・ハント氏の言葉を引用してありますが、それは両親の子供を指導し訓練し治める責任を強調し、子供は両親の助けが必要で、非難を必要としないと言っておりです。

文明が進むにつれて親の責任は難かしくなっていくように感ぜられます。或親は自分自身の物に対する執着或は社会的地位の追求から、子供たちの教育の効果をうすくしております。事業を進めるために、人を欺いたり、いろいろな形で心を固く、人を受け入れなかったとします。すべてこれらの実生活が子供たちの誤った無法な行動の種子となるのであります。何となれば子供たちは、その行動と生活態度を彼ら自身の家庭で直面する手本に見習うからであります。

家庭に於ける責任

マッケイ大管長が曾て言われたように、私も私たちの最大な責任は私たちの家族に対するものであり私たちは皆何処にいようと模範的な生活をせねばならないことを強調したいと思えます。教会は私たちに或標準と教えを与え、私たちはそれを受け入れ、そしてもし私たちがそれにそつて生活するならば、何ものよりも高い理想と善良な市民たることに貢献するであります。

私は再三申上げましたようにもしも社会の成人たちが宗教的生活をし、彼らが公言するところの道徳的標準を保つなら、私たちは少年犯罪の問題を持たなくなるであろうことを確信します。他面皆さんは貴方の手本によって子供たちを殆どどんなものでも憎むことを教会に行くことさえきらいにさせることが出来るということをお聞きになられたと思いますが、それは事実

であります。少年犯罪を心配し口やかましくさわぐ多くの人が彼らの日常生活を以て、むしろ奨励しつづけているのです。

福音が教えられ、それが実行されているような家庭に生活する子供たちは何と仕合せなことでありましょうか。そこには完全な愛と調和があり、父親が母親に對した母親が父親に對したまた彼らが子供たちに對した子供たちはお互に、どうぞ、とか、有難う、とか、私は貴方を愛しています、とか、貴方の髪は美しい、とか、私は貴方の着物がほんとに好きだ、とか、貴方のお話はほんとに素晴らしい、とか、私は今日はほんとに貴方を誇りに思った、とか言い合つてお母さんはお父さんの徳をほめ讃えているのです。このような家庭に育つ子供たちはほんとに幸福であります。

家庭に於ける祈り

毎朝夕家族が共に跪いて、家族の祈りをし、子供たちが、お父さんお母さんが祈る時、実際に神様とお話をし、汝のする一切の働きについて主のみこころを伺え。そうすれば主は汝のためになる善い誠めを与えたもう。(アルマ書三七・三七)ということを知つて主を信じすべての問題を差出して感謝し、すべてのなすことに主の祝福があるように頼んでいるのであるということを知る時、その子供たちの生活の上に如何に大きな影響があることでしょうか。

私たちが困った時、真剣に神の助けと導きと指示が必要な時にだけ神を呼び求めるのでなく、毎日その受けている祝福に心から感謝することは如何に大切なことでありましょうか。私は家庭の祈りが私の生涯に及ぼした影響を考へる時、心から両親に

感謝せずにはおられないのであります。

アルバート・アインスタインはかつて模範の影響について次のように語りました。

私は如何なる富も人道の向上に資したことはなく、この道に身を捧げた偉大なる働き手を助けたこともないことを固く信じます。偉大なる純潔な個人々々の模範のみが私たちをして高貴な考えと行ないに導くのであります。お金はただ、私欲に訴え、不可避的に非難を招くのであります。誰かよく、モーゼ・イエスまたはガンジーがカーネギーの財布で武装したと想像出来るでしょうか。

私は、鴨は鳴くのでなく飛び立つ時にその群が飛び立ってこれに従う、と言う中国の諺が好きです。私たちは如何なることよりも、よい模範によって、よりよく為すことが出来るのです。

家庭内に於ける礼儀

もしも家庭内の大きな人たちが家庭内でのお互いの言語動作また電話などに礼儀正しくお互いに尊敬し合うなら、若い人たちに大きな影響を与えており、私は彼らが必要そのよき模範に従おうとするであろうと確信するのであります。

私たちが家庭内に在ってお互いにその家族員をお客さんのように尊敬し合うならその家庭内に何と素晴らしい影響をもたらすでしょうか。マッケイ大管長とマッケイ姉妹は真にこのよき模範であります。

私はマッケイ姉妹の次の記事をほんとに興味深く読みました。

私は私の夫をほんとに誇りに思っております。彼は家庭に在って、他の如何なる場所における場合と全く同様に、親切で礼儀正しく、やさしく愛らしく私はほんとうに心から彼を誇りに思っております。そして私は彼に非常に感謝しております。私は彼の中に欠点を見ません。そして私は皆さん兄弟たちがあらゆる点に於て彼に見習い彼の模範に従うように祈ります。

数日前に私は或人に教会内の活動が彼と彼の家族にとつてどの程度、意義があるものであるか述べて、その反応を見たいと思いました。彼は言いました。私はよい教会の会員だと言われている隣人を持っておりますが、先日私は彼女が夫に對しわめいているのを聞きました。また子供に對しわめいているのも聞きました。そこで私は彼女の言うことを何でも聞くことが出来ませんが、その家庭に愛が感じられると信ずることは出来ません。

これは確かに教会にとつても、またその家庭にとつてもよい広告ではありません。私たちは常にお互いにまた隣人に對し親切にいたわり合うべきであります。実際に或若者が言つたように、私たちの仕事は私たちを向上させ、他人を幸福にするにある。それで私たちは充分に忙しいのである、であります。

私は教会の会員の行爲のために不活発となり、教会を去つた若い人や新しい教宗者がいるのを知っております。多分皆さんもされどと思ひますが私はしばしば私自身に私の生活私の行動は私の子供や、隣人や、友人たち私を取巻いている人たちに果してどんな効果を及ぼしているだろうかと問ひます。

家庭内に於けるゴシップも危い習慣でこれに耽るべきではあ

りません。貴方の聞くことはしばしば真実ではありません。もし真実であったとしても隣人を悪く言うことは何人に対しても如何なるよいこともありません。美しい讃美歌に歌ってありますように、もしとがをみて、人には知らずな。

私たちはお互いに愛し合わねばなりません。イエスは言われました。

……「心をつくし精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」

これらの二つのいましめに、律法全体と予言者とがかかっている。(マタイ伝二二・三七―四〇)

幹部を尊敬する

幹部を尊敬することは家庭で教えられねばなりません。これは最も大切なことであります。子供たちは私たちがお互いにまた幹部を尊敬する行為によって教えられるのであります。もしもお父さんお母さんがただ「私は監督がどうしてこうするのかわからない」とか「何故ステーク部長はこうしないのだろうか?」とか「どうして教会幹部はそんなこと言うのだろうか?」などと言うだけで子供たちをして、お父さんお母さんは果して教会幹部を支持しているのだろうかと疑わせるようになるのであります。私たちは教会の中で行なわれることが理解出来ず、また賛成出来ない場合もあるかも知れません。けれども私たちは常に教会幹部を支持することによって誤ることがないこ

とを知って、支持するように準備され、決心したことを念頭に置くべきであります。

皆さんの子供さんたちは福音が皆さんにとって他の何ものよりも大切であること、それが真実で人生と救いの計画であるということを皆さんが知っておられること、そしてそれによって生活する時にそれが貴方に最大の喜びをまたこの人生に於ける成功をもたらずであらうことを、またそれは貴方を天父の御前に戻るように用意させるものであることを何の疑いもなく、知っておりますか?

ブリガム・ヤング大学の教師に選ばれる前に、彼はその資格を決定するために教会幹部によって面接されます。彼は何処に行っても光を放つ証を期待されます。彼は安息日を潔く保つようになつており、完全な什分の一を支払い、すべての為すことに誠実で誉れあり、正しく知恵の言葉を厳格に守っていないければなりません。今私はこれらの応募者と面接する時に教会の標準になつた生活をしていない末日聖徒の教師を採用するよりも、むしろ非会員の教師を採用した方がよいと思います。それは模範が如何に大切であるかということでもあります。

これは家庭に在っても同様に真実であります。もしも両親が如何なる程度にせよ知恵の言葉を破つたり或は安息日にゴルフや水泳などをしたら、如何に彼らがその子供たちを教えようとしても、神の誠命を守り、福音の教えに従つて生活することは大切でないという印象を与えるのであります。

私たちの家庭を訪問する家庭教師の歓迎ぶりさえ、子供たちの生活に大きな影響をもたらします。もしも私たちが心から彼

らを迎え、監督の代表者として彼らを受け入れ、その話を聞き、彼らを尊敬するなら非常によい影響を与えるでありましょう。

これに反し、彼らは私たちに負担をかけるとか、どうも都合が悪いというような態度をとるなら、はかり知れない悪効果を及ぼすのであります。私たちの子供たちは教会内で生れた（生れた時両親が既に教会員である）としてもよくて、求道者であります。彼らは教義と模範によって福音を教えらるる必要がありますのであります。

予言者ジョセフ・スミスが森の中に行つて折り、父なる神と御子イエス・キリストが現れて、彼と語つたという話程、子供たちを興奮させる話はないでしょう。彼らはそれを何度も繰り返して聞くことが出来るのであります。それから彼らは彼が人々から批判され嘲笑され非難され、十五才から十八才迄の間、出席する日曜学校もなく、あらゆる誘惑に堪えて来た話を聞かされるでありましょう。そしてそれから天使が如何に現れたか、またバブテスマのヨハネ及びペテロ、ヤコブ、ヨハネが彼に來たことなどは最も深い印象を与えるでありましょう。

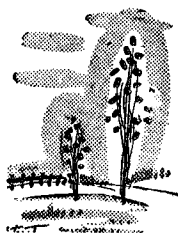
実際に聖書やモルモン經や教会の歴史の中に含まれている美しいお話、及び末日聖徒イエス・キリスト教会で教えられている簡単な福音の原則程子供たちに訴えるものはないのであります。

さて愛する兄弟姉妹の皆さん。私は皆さんに末日聖徒イエス・キリスト教会で教えられている福音の真実であることを証したいと思ひます。私は皆さんがこの福音を真剣にその家庭生活に取り入れ、社会での毎日の実生活に実行して行くなら必ず

周囲の者にその影響を及ぼし、この地上に於ける貴方の使命は達成されるでありましょう。

私は神は生き給ひイエスはキリストであり彼らは私たちのことを思い私たちの祈りに答えようとしておられることを更に証したいと思ひます。更に私たちは今日、教会の頭に、この仕事を指示する神の予言者を持つてゐることを証します。

私たちが皆、これらのことに倣ひする者となりますようイエス・キリストの御名によつてお祈り致します。 アーメン



質 疑 応 答

Your Question and Answer

解答者 ジョセフ・フィールデング・スミス長老

質 問

神権会のクラスで私たちは復活及び肉体は如何なる形をもって墓から出て来るかということについて討論しました。或者は墓に横たえられた時と同じ形をもって、即ち手足がないかその他不具者であった者はそのままの形で出て来てその失われた部分は後からつけ加えられると言い、他の者は、心身共に完全な姿で出て来ると言います。私たちはこの疑問について正しい指示を望んでおります。

解 答

幸いにも主は復活について多く示され、それは普遍的なものであることを明らかにされました。今日、復活は人間にだけ限られたものである。また人間の一部にだけあるというような考えを持った人が世の中におりますが主の啓示は極めてはっきりと復活は普遍的なものであると宣言しております。即ち生命のあるすべての生物は永遠の生命に復活するであろうと言われます。これは一八三〇年九月次の言葉をもって予言者、ジョセフ・スミスにはっきりと啓示されました。

やがて終末は来り、天地は焼き尽されて過ぎ去り、新しき天と新しき地とあらん。すべて古きものは過ぎ去り、夫地すらも、またその中にあるすべてのものも、すなわち人、獣空の鳥、海の魚も万物ごとく新しくならん。されど一筋の髪の毛、一粒の微塵といえども失われることなからん。それらのものは皆わが手によりて造られしものなればなり。

(教義と聖約二九・二三―二五)

ニーファイの兄弟、ヤコブはニーファイ人に対する説教の中で言いました。

。私たちがこの恐ろしい怪物につかまれないように、一つの道を備えて下さる私たちの神の恵みはいかにも大きいではないか。まことにその恐ろしい怪物とは死と地獄とであって、私のいわゆる肉体の死と霊の死である。しかしイスラエルの聖者である私たちの神が救いの道を立てたもうたから、私が今言った肉体の死である墓は一時的のものであって、やがてその中にある死体を解き放つ。また私が今言った霊の死である地獄もやがてその中にある死んだ霊を解き放つ。それであるから、墓と地獄とは何れもその中にある死者を出

さなければならぬ。すなわち地獄はその捕えた霊を放ち、墓はその捕えた肉体を放たなければならぬ。そこで人の体と霊とはもの通り一しょになるのであるが、これは全くイスラエルの聖者のもちたもう復活の能力による。(ニーフай第二書九・一〇—一二)

このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、善をおこなった人々は生命を受けるためによみがえり、悪をおこなった人々はさばきを受けるためによみがえって、それぞれ出てくる時が来るであらう。(ヨハネ伝五・二八—二九)

このように私たちは、復活は普遍的であることを学びます。この祝福は人間にだけでなくすべての生物にもたらされます。更に地球そのものでさえ落ちて、回復され高められるのであります。

救い主の来られる数百年前に予言者エゼキエルは示現で死者の復活を示されました。彼はこれを次のように書きました。

主の手がわたしに臨み、主はわたしを主の霊に満たして出て行かせ、谷の中にわたしを置かれた。そこには骨が満ちていた。彼はわたしに谷の周囲を行きめぐらせた。見よ、谷の面には、はなはだ多くの骨があり、皆いたく枯れていた。彼はわたしに言われた「人の子よ、これらの骨は、生き返ることができるのか。」わたしは答えた「主なる神よ、あなたはご存じです。」彼はまたわたしに言われた「これらの骨に預言して、言え。枯れた骨よ、主の言葉を聞け。主なる神はこれらの骨にこう言われる。見よ、わたしはあなたがたのうちに息を入れて、あなたがたを生かす。わたしはあなたがたの上に筋を与え、肉を生じさせ、皮でおおい、あなたがたのうちに息を与えて生かす。そこであなたがたはわたしが主であることを悟る。

わたしは命じられたように予言したが、わたしが予言した時、声があった。見よ、動く音があり、骨と骨が集まって相つらなつた。わたしが見ていると、その上に筋ができ、肉が生じ、皮がこれをおおったが、息はその中になかった。時に彼はわたしに言われた「人の子よ、息に予言せよ、息に予言して言え。主なる神はこう言われる、息よ、四方から吹いて来て、この殺された者たちの上に吹き彼らを生かせ。」そこでわたしが命じられたように予言すると、息はこれにはいった。すると彼らは生き、その足で立ち、はなはだ大いなる群衆となつた。

そこで彼はわたしに言われた「人の子よ、これらの骨はイスラエルの全家である。見よ、彼らは言う「われわれの骨は枯れ、われわれの望みは尽き、われわれは絶え果てる」と。それゆえ彼らに予言して言え。主なる神はこう言われる、わが民よ、見よ、わたしはあなたがたの墓を開き、あなたがたを墓からとりあげて、イスラエルの地にはいらせる。わが民よ、わたしがあなたがたの墓を開き、あなたがたをその墓からとりあげる時、あなたがたは、わたしが主であることを悟る。(エゼキエル書三七・一—一三)

キリスト教界の学者と言われる人たちの間では通常この聖句は比喻であつてイスラエル家の全般的な復活を意味するものではないと解釈されております。けれども救い主自ら人類の普遍的な復活を声明している多くの聖句があります。その一つは次の通りであります。

それは、父がご自分のうちに生命をお持ちになっていると同様に子にもまた、自分のうちに生命を持つことをお許しになつたからである。そして子は人の子であるから、子にさばきを行う權威をお与

えになった。このことを驚くには及ばない。墓の中にいる者たちがみな神の子の声を聞き、善をおこなった人々は生命を受けるためによみがえり、善をおこなった人々はさばきを受けるためによみがえってそれぞれ出てくる時が来るであろう。(ヨハネ伝五・二六―二九)

現今人類の発見は物体は破壊されないということを証明しました。肉体は焔または火刑で焼かれるでしょう、それは大海でふかに食われるかその他の方法で食い尽くされてしまうかも知れません。けれども私たちは救い主の教えを通じて復活は普遍的で一つの霊も忘れられず彼の肉体も墓に置き去りにされない確信を持っております。私たちは肉体に本質的なすべての分子は、それぞれ適切な場所に回復されてエゼキエルの示現は確実に成就されることを確信します。更に記憶も同様に保たれて悪人たちはその罪をはっきりと回想すると告げられております。先に引用したように、ニーフアイの兄弟のヤコブはニーフアイ人たちにこのことを教えております。

復活後取り除かれるべき疾病の状態を示す。死んだ時と同じ状態で出て来ることには目的がありません。或批判的な人はこれを読んだ後に次のように言うかも知れません。

貴方の書かれていたことが真実でもし肉体が不完全な状態で復活しないとすると、何故救い主は復活して弟子たちの前に立った時、手足及び側腹の傷を見せて、ほんとに彼であるかどうか触れて見よと言われたのですか？ 更に彼は彼らに確信させるために何か食物を求められたのであります。

これに対する解答は彼らが霊ではなく骨肉を持った彼を見ていることを確信させるためであります。救い主がニーフアイ人に現れた

時、証人を立てる神性な目的をもって、彼はその手足を彼らに示されたのであります。このことから私たちはニーフアイ人が信じて彼が十字架にはりつけられたことの証人となるためにその傷が続けて示されるであろうと考えるのであります。私たちは予言者ゼカリヤによって、救い主が再臨してユダヤ人に現れる時、丁度復活後に弟子たちに現れた姿で現れるであろうと告げられております。

ユダヤ人は同じ質問をするでしょう。

「あなたの手の傷は何ですか」

救い主は答えるのであります。

「これはわたしの友だちの家で受けた傷だ」

(ゼカリヤ書一三・六)

「聖徒の道」を製本して販売します。

既に出版された「聖徒の道」を一年単位で製本してみなさまの便をはかります。できるだけ早く係まで予約して下さい。送金は本の到着と同時に結構です。

なお価格は

一九六一年度	一一〇〇円
一九六二年度	一一〇〇円
一九六三年度	一三〇〇円
一九六四年度	一四〇〇円

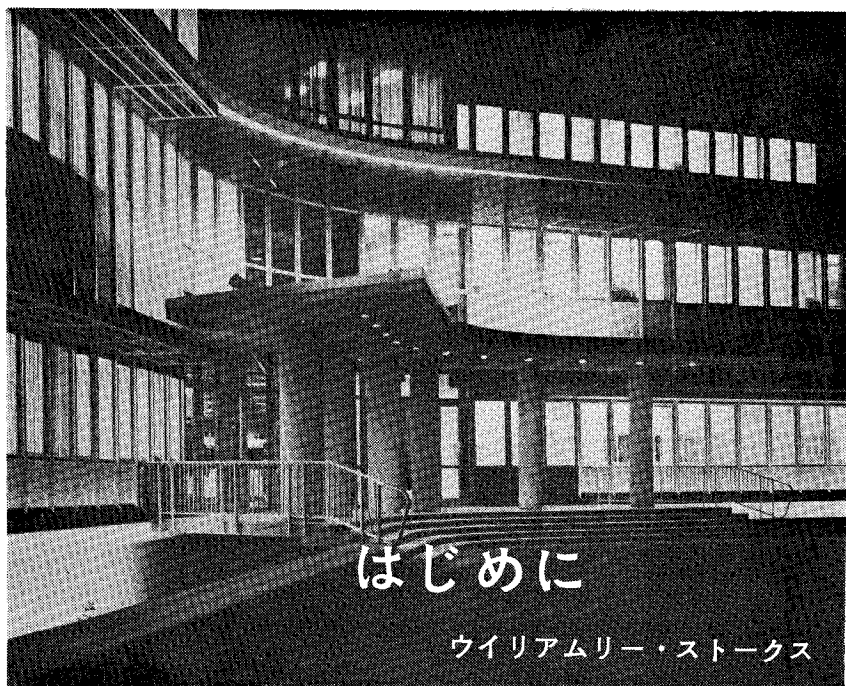
どうぞ注文して信仰生活の糧にあるいは、教師の資料に御利用下さい。

予約申し込みは

東京都港区青山北町六一三

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道係まで



はじめに

ウィリアムリー・ストークス

ウィリアム・リー・ストークス

元素は永遠なるもの

一八三三年予言者、ジョセフ・スミスは、元素は永遠なるものである、との大いなる真理を宣言しました。(教義と聖約九三・二三) この注目すべき確言はこの地球の早期時代の歴史及び状態を論ずる時に役立つであります。すべての過去についての論議は、既に実在する事物のある組織の任意の点から始められねばなりません。彼らの特殊な分野に従って科学者たちは幾つかの出発点を持ち物理学者は通常化学的な要素の起源をもって始め、天文学者は宇宙の始まりをもってし、地質学者はこの地球の始まりをもってし、生物学者は生命の出現をもってし、人類学者は、人間の出現をもって始めます。更に説明を必要としない或前世の状態が暗黙の内に受け入れられております。

私たちは創造についての聖文はどちらも決定的起源をもって始めていないことに心を留めるべきであります。高価なる真珠のモーセの著は、私たちがどのようにして創造の知識を受けたかについて最も満足する説明を与えております(モーセの著一ノ三) それは次の通りであります。地球とその住民についての大きな示現を見た後に、モーセは神に彼らは何故、どのようにして創造されたかたずねました。神は答えました。……われ自らの目的ありてこれらのものを造りたり。ここにわが智慧ありて、われと共に存す。(モーセの著一・三二)

モーセは更に、神よ僕を憐れみたまいてこの世とこの世に住める人々と、また諸天のことを語りましたまゑ、さらば僕の心足りぬべし。

(モーセの著一・三六)と懇願しました。主は答えられました。見よ、われこの天とこの地につきて汝に啓示す。(モーセの著一・二)この天とこの地、という表現は特別な銀河か或は地球もその一部である体系を指しているようであります。確かに決定的な起源については啓示されておりません。モーセの著、創世記及びアブラハムの書に記されている記源は特にこの地球についての永遠の任意な部分を占めているようであります。

真実な探求が必要

私たちは聖文による創造の記述を如何に科学的な探求に比べて行けばよいでしょうか？使徒パウロは次のような指示を与えております。すべてのものを識別して良いものを守り。(テサロニケ前書五・二)

私たちの探求は恐れることなく公然となされねばなりません。科学的及び聖文上のすべての証拠が考慮されるべきであります。まじめな研究者は出来るだけ事実を集め、それを検査し推理します。新しい情報は歓迎され、統合されます。もしもこれが古い理論を否定するなら新しい理論が体系化されねばなりません。

聖文は科学的問題と同様の注意をもって学ぶに値するのであります。特殊な問題についてのすべての参照は挙げられ、比べられ、すべての重要な言葉の意味は書き付けられるのです。或表現が実際のでもあり、抽象的でもある場合には両方の意味が考慮されるべきであります。詳解または聖書辞典は役に立ちヘブライ語またはギリシャ語のわかる人の援助は更に明るくするでしょう。聖典を研究するすべての学生は孤立した引用、または前後関係を取り除いた句によって判断することは安全でも公正でもないことを知っております。

もしも私たちが或方に証する聖文を全部、反対の方に証する聖文にそえて並べれば一目して一方が多方に一文だけまざっているのを見出すでしょう。私たちはそこにもれがあり或は、誤訳があることを発見するかも知れません。或はまた対立する一方の声明は明かに比喩的であるのに多方は実際的であるのを発見するかも知れません。要するに私たちが理解出来るすべてをなす迄は、真に聖文的に学んだことになりません。真剣に学んで始めて靈感されるようによく準備されるのであります。

もしも二つの同じく可能な科学的な理論が存在するとするなら私個人としてはその主題を取り扱っている聖文によく一致する方をとります。同様に二つの同じように強い聖句があつて一つが科学に一致しており他がそうでなければ私は最初の方に傾きます。例えば私たちは創世紀の一日は二十四時間、一千年間または、はかり知ることの出来ない永遠、無限の継続、如何ように信ずるも随意であります。これらの解釈の内最後のものが累積された科学の証拠に一致しているので私はそれをとります。

創世に関する聖文

末日聖徒にとっては創世紀一―二、モーセの著二―三及びアブラハムの書四―五の創世に関する三つの記事があります。創世紀が三度繰返されていることは極めて重要であります。この三つは大体において一致しておりますがその詳細において異なっていることも極めて大切なことであります。或箇所はほとんど文字通り一致しておりますが他の部分は全く相違しております。けれどもこれらの三つの記事の相違はキリストについての話の四福音書相互間における程大きくないことが認められます。これは明らかに私たちはすべての

根源から情報をつぎ合せて最も完全な理解を得なければならぬことを意味しております。

靈的創造

現代の啓示の最も重要な貢献は靈的創造の概念であります。靈的創造があったということは、創世記では漠然と暗示されておりますが、モーセの著とアブラハムの書では明確に述べられております。正しく解釈されたこの概念は幾世紀にもわたってキリスト教の研究者たちをあいまいにさせていた創世記一章と二章の対立するように見えたものを、はっきりさせたのであります。また現代の科学と聖文の間のへだたりに橋をかけたのも、この概念であります。この樂觀的見方を支持してどのように言えるでしょうか？これに答えるために私たちは他の聖文及び科学的な事項に簡単にふれねばなりません。

ジョセフ・スミスは事物には二つの階層または状態があるというもう一つの大きな真理を知っており宣言しました。その鍵である聖文は、そもそも、実体を有せざる物質のごときはあることなし。すべての靈は物質なり。ただ、ひとときわ極微純粹にして、ひとときわ淨き眼のみよくこれを見極め得るなり。われらこれを見ること能わず。されどわれらの肉体淨めらるる時、われらは靈はこれすべて物質なるを見ん。(教義と聖約一三一・七、八)

ここで用いられている「靈」という言葉を私たちはどのように解釈したらよいでしょうか？それは極微純粹の物質のようでありますが、私はこれを靈的創造と解釈したいと思います。

私たちはジョセフ・スミスによって参照され靈的物体について何か知っているでしょうか？それは全く五感の限界を越えたエーテ

ルのようなものでしょうか。私は靈的物質は、今日の科学が研究発見している元素または原子下粒子より大きくも小さくもないものであると提案します。電子、陽子中性子、その他あまり知られていない粒子は極微純粹で、これから複雑な物または総合体が造られる本質的な建築ブロックであります。これらの粒子はいろいろな組み合わせによって化学的な要素を構成し、それが物質的な世界を造るわけであります。光子は発光の単位で放射する時だけの粒子であると見なされております。光の根本と未だに神秘的な性質は単に科学的な探求によってばかりでなく教義と聖約八十八章のような聖文によって示されております。

創造の最初の行為は嚴肅な命令、光あれ、でありました。宇宙の殆どの光は一電子と一陽子から構成されている最小の化学的要素である水素から発光しているのであります。これは最も豊富な要素で宇宙のすべての物質の九十パーセント以上を形成しているのであります。創造の立場から見ると元素たる粒子の合成によるものでそれは明らかに元素であり、有機体の本質をなす、炭素のような、より複雑な重い要素の構成分子であります。

銀河の起りについての殆どの理論は主として水素から成っている広大な無形の雲であります。この大雲が凝縮して水素に起こる原子核反応によって発光体の星となるのです。より重い星の内部には、より複雑な要素が造られ、また大爆発の副産物として新星、または超新星が造り出されると考えられています。とにかく組織の過程は元素粒から始まりこれが、水素を通じてより重い要素となるのであります。光の出現は、他の要素の創造が始められる先駆であります。現在の銀河にはすべての度合及び状態が存在しますがその層は

組織された要素の欠けていた無形であつた遠い昔からのものなので
す。

はじめに

もしも私たちが靈的創造が實際の純粹な原子下の物と關係あり得ることを確信出来るなら、私は私たちが聖文による創世の記事を理解する道にあると信じます。私たちは元素たる粒子は決して完全に理解されるものでないことを覚えるべきであります。それらは光との終局的な關係において更に純粹な実体になり得るかも知れませんが、靈的な物質が如何に組織され、支配され管理されているかはこれから発見または知らるべき神秘であります。

異なつた意見

聖文の如何なる部分が靈的創造を参照し、如何なる部分が天然の總体的創造を参照しているかについて幾つか異なつた解釈があることは注目を要します。ミルトン・R・ハンター、ブルース・R・マッコンキー及びジョセフ・フィールディング・スミスのような著者はアブラハムの書が靈的創造として、青写真に比べ、モーセの著と創世記を自然科学的な創造であると告げております。これと殆ど対立する意見はJ・ルーベン・クラーク及W・クレオン・スカウセンで彼らはモーセの著と創世記は靈的であり、わずかに自然科学的な創造に触れているに過ぎないとしております。私はすべてこれに関心を持つている人が読んで上述の参照を比較されるように心から勧めます。

水の重要性

他に相違した点があるにもかかわらず、この創造に関する三つの記事は地球上に水をもたらすことについての表現は殆ど一致してお

ります。このことについてモーセの著は次のように記述しております。

。われ神、第七の日を祝福してこれを聖めたり。そはわれ神、その創り為したる工をことごとく竣えて、この日に休みたればなり。

さて見よ。よく聞くべし。われ主なる神の天地を造りたる日に天地の創られたる時、天地の生成したるはかくの如し。

野のすべての木はいまだ地にある前にして野のすべての草はいまだ生えざる前なりき。そはわれ主なる神、わが語りしすべてのものを、これらがいまだ地の面に自然にあるに先だち靈として創りたればなり。またわれ主なる神、雨を地の面に降らせず、われ神すでにことごとく人の子らを生りたるも、いまだ土地を耕す人なし。そはわれ天において彼らを造りて地の面にも水の中にも空の中にもいまだ肉ある者なかりければなり。

されど、われ主なる神、言を出したれば霧地より上り来りて土地の面をあまねく湿したり。(モーセの著三・三一六)

創世記とアブラハムの書の説明はモーセの著の説明によく類似しております。地上に水がもたらされてから、人体をも含めてすべての有機物の創造がなされたのであります。そこで水の出現が聖文の記事の中で最も大切な点であります。

地中から水がもたらされたという概念は、地質学者によく受け入れられました。實際に、水の起源について、最も広く支持されている理論は地中から自然と出て来たということでありま。

以前に地表に決して出なかつた新しい水が温泉に間歇泉に火山に間断なく現れているのは観察すべきことであります。生産の割合は過去の方が高かつたかも知れませんが、今日この地上に三百萬立方

哩の水を生産するのに充分な時間があつたのであります。

水はただ摂氏零度から百度（華氏三十二度—二一二度）の間の温度だけに存在し得るものでこの特別な温脈は宇宙に稀にしか存在せず、宇宙はあまりに冷たく太陽はあまりに熱く、ただ時々まの遊星が適度な温度を持っているのであります。

地球はこの太陽系の他の天体に比べると、誠に水の豊かな特殊な場所であります。

地上に水が現れるとすぐよく知られた循環即ち大洋から雲に雲から雨に雨から河川に河川から大洋へが始まつたのであります。このようにして地上の全表面は雨が降り河川が貫流してあらゆる環境を循環して水にうるおしたのであります。

地質学者は岩石から流水の跡をよみとることが出来ました。急流波浪、流水は堆積、波状痕跡、岩層、乾燥土を形成し雨垂れはしずくの跡をとどめました。堆積岩の内にこれらのこと、また多くの他の事が痕跡となつて示されております。それらは火成岩のような溶岩には見られることなく、また水や生物も存在しない月にそれを期待することも出来ません。これらのしるしから私たちは水はこの地球上に約三十億年以前から作用していたと判断するのであります。

これらの岩石の記録より、もっと大切なことは私たちが有機物として、知っている生物は絶体的に水に依存しております。それは生物の原形質の主要な構成分子であります。私たちの肉体は九十パーセント以上が水であります。そしてすべての植物、動物は生存して行くのに水を要求しているのであります。

地質学者が水流の痕跡を発見したら彼はそこが生物の棲息に好適の場所であつたことを知るのであります。ですから水成岩の中に発

見される最初の簡単な化石は約二十億年以前のものであることは驚くに足らないのであります。はっきりした年代はそう大切でなく、その後のなりゆきがむしろ大切なのであります。生物はその最初の出現からその生命が簡単なものから、複雑なものに秩序正しく合理的な方法で発展して行つたのであります。地質学者は時間的に局限された視野の持主或は中世の人々の信じていたような繰返された突然の創造、または断絶或は世界的な大災害の証拠を発見しません。長い地質学的な期間を通じて水は決定的な役割を演じ大海は生物の生命を支えられるようにあまり熱くも冷たくもなかつたのであります。生命への簡単な聖文の参照は単にアダムの現れるための背景に過ぎず、進化の詳細を説明しようとするものではありません。

その後の経過

まだ組織されない潜在するところのものを霊的なものとする考えをもつてアブラハム書四章に与えられた創造の結果を注目することは興味あることであります。第一日に天と地（無生物）が造られ、二日目に空（無生物）が造られ三日目に水が集められ植物をもたすための地が備えられました。四日目に天に光、太陽、月、及び星（無生物）が造られ五日目にあらゆる種類の生物をもたすために水が備えられました。六日目に、而して神々地が獣をその種類に従い、家畜をその種類に従い、あらゆる這うものをその種類に従いて生ずるよう組織したまへり（アブラハム書四・二五）この最後は將來適当な時期に生物が期待または命ぜられてゐることのはっきりした声明であります。彼らは前述したように地上に水がもたらされるのを待っていたのであります。

この記事は神が今や主として生物の計画と準備に関心を持ってい

たことを示しております。七日目に続くことは自ら間断なく運営し永続して行くものであります。そうでなければ七日目を休む時としている多くの参照文を如何に解釈することが出来るでしょうか？

実際に私たちはまだ七日目にいるようであります。私は七日目の結末又は八日目の開始の参照を見たことがありません。アブラハム書の記事に何の根拠があるでしょうか、それがはっきりと多くの具体的なことを述べているのに単なる青写真に過ぎないでしょうか？アブラハムは思想と同様に行爲を詳しく述べております。私はもし私たちが霊界と自然界との組み合わせれた同一の話を受け入れることが出来たら、もっと調和のとれた解釈に達すると信じます。

現代の聖文と現代の科学の間に存在する、この他多くの興味ある相互關係を討議する余裕はこの限られた紙面にありません。両方の根源とも元素から始まっていることを示しております。或科学者が「水素神」と表現しているのは粗いまたは重い諸要素に先行する元素の創造の相に注意を向けようとしているのであります。科学と聖文は光の出現は最も大切な里程碑であることを認めております。科学者は生命に本質的な要素は生命が存在する前に組織されない形で存在していたに相違ないと指摘しております。聖文は神は適当な時期に生命をもたらすために地と水を備えたと述べております。地質学者は水流を地球の温度及びその他の天然現象が生命の出現に適當となつたしるしであると見ております。この地上に水をもたらしたところは聖文中の最も卓絶したところであります。この水の出現の前には有機物または生物は潜在的なものでありましたが、その後は現実的なものとなりましたのであります。聖文は地上に水をもたらしたことと、人間の出現について少ししか述べておりません。素晴らし

く發展した、地上のあらゆる、いろいろな組織体は主として地質学者によって提供された話であります。科学者はエデンの園及び墮落の神秘については何も知りません。

科学者はこれらのことに關しての彼らの宗教的な信心を丁度他の人が信じていると同様に持っているのであります。私たちはアダムがエデンの園でつくられたのでないことを、そして園の外の状態は内と全く異っていたことを心に留めておかねばなりません。ここで時間的な要素を除いてエデンの園の話の外に迄言及することは、この討議の目的ではありません。

ある学者たちは聖文を創造に短期間しか要しなかったと解釈しております。いわゆる新教の根幹をなしている人たちは地球はわずか六千年を越したばかりだと信じております。これと同様の線に沿うて考えている他の多くの人たちはこの年数を一万二千年にのぼしております。彼らは丁度一千年づつの六つの創造期に、アダムの墮落からの六千年を加えたのであります。これにつらなる信念は、墮落以前の不死であります。このことはすべての植物及び動物はアダムの墮落する時迄は創造の時より不死の状態に在ったことを必要とします。このことがもし真実であるとするなら、すべての化石（恐らく足跡を除いて）は六千年以上であり得ないことになります。そうしてアダム前の歴史は非常に圧縮されて人間は恐竜ばかりでなくすべての絶えた生物と共存したことになるのであります。地質学者によつて遡つた、ゆつくりだんだんと系統だつて發展して来た歴史の代りに史上急激な天変地変が必要となつて来るのであります。

急激な創造、または一大天変地変が発見されたような重要な科学的証拠がないことは言う迄もありません。これらの解釈を支持す

と言われる聖文を注意深く学ぶと確信出来るものではありません。若干の例がありますが紙面の余裕がありませんからただ一つだけ紹介しましょう。よく引用されるのはペテロ後書三章八節であります。愛する者たちよ。この一事を忘れてはならない。主にあっては、一日は千年のようであり、千年は一日のようである。この聖文を引用する者をして、創世記の日の一千年であったことを証明するにはその意味をかつとして次のように示さねばなりません。主の一日は（人の）一千年のようであり（人の）一千年は（神の）一日のようである。私はこれを言いかえて主の一日は（神の）一千年のようであり（神の）一千年は（神の）一日のようであると提唱します。これは神にとって時間は無意味なものであり、人の理解を超越したものであることを意味しているのではないでしょうか？更に面白いことが考えられます。もしも神の一日が地上の一千年であるとするなら、神の一年は地上の三十六万五千年であります。そして神の一千年は地上の三十六億五百万年であり神の七千年は二百五十五億五百万年となります。この数字はW・W・ヘルプスがジョセフ・スミスの兄弟に宛てた手紙に我々の体系の年代として指摘したものと不思議にも一致しております。

予言者アルマは、……神には時の計算がなくすべて一日と同じである。時を計るのは、ただ人のためだけである。（アルマ書四〇・八）と書いております。創世の時間についての意見の相違から、末日聖徒間に生ずる多くの心痛な思いは不必要なように感ぜられます。私はブリガム・ヤング大管長の言葉を引用します。私は不信心（又は無宗教）が地上の人々の間に大きくはびこっているのを驚きません。何となれば宗教は科学によって示威された事実に対立矛

盾するような、真理のための進んだ高度な多くの思想と概形を教えてくださいますから……。私はこの説教に関心を持ったすべての読者におすすめします。恐らくブリガム・ヤング大管長の言葉は聖文に就ての無理なまたは矛盾した解釈は真理を探索する者に、混乱と幻滅をもたらし確信を失わせるようになることを警告するものでありましょう。

引用句

「ただ一度きりの生活、私たちがこの地球の上で営む生活はただ一度きりだ。

一度きりの生活の中で学ばねばならぬことがなんとたくさんあることか。

私たちの価うちを求め価うちを見つけ、価うちを証明すべきことが、何んと沢山あることか。

登らねばならぬバラ色の山頂、ふみこえて行かねばならぬ道の多いことよ。

されば、あてもないむだな探求に時を費すなかれ。

浪費するとも心して有効に使おうとも時間は君のものだ。

善行を延ばすは愚者のすること「明日ありと思うな」と人は言う。

未来は神のもの、君の持っている機会は今日、しかも今だけである。」

作者不明

小松新伝道部長さんと ハワイの王様

よ み も の

雄 正 部 渡
(お さ ま べ た わ)

ニーフアイは父リーハイに就て次のように
言いました。

まことに父は異邦人とイスラエルの家につ
いて多くの話をしたが、それはイスラエルの
家はその枝が折れて全地の上に散る一本の
「かんらん」の木にたとえられる。それであ
るから、全地の上に散ると言う主の言葉がほ
んとうになるために、私たちは一しょになっ
て約束の地へ導かれて行くにちがいない。そ
して、イスラエルの家は散ってからまた集り
合うであろう。つまり異邦人が完全な福音を
受け入れてから「かんらん」の木のえの自然
の枝であるイスラエルの家の残る者たちがま
た親木に接がれるであろう。すなわちかれら
の廣い主であつてかれらの主であるほんとう
のメシヤを認めるようになると言った。

(ニーフアイ第一書一〇・一二—一四)

小松新伝道部長さんは御夫妻ともその御先
祖は私共の先祖と同様に日本に住んでおられ
日本人でありました。今小松と云う姓を姓氏
家系大辞典で見ると次のように記してありま
す。

遠江国佐野郡に小松郷ありて古万都と註
し、また摂津国武庫郡に小松荘あり。また近
江国滋賀郡に小松庄あり、その他山城、大和

伊勢、駿河、甲斐、相模、武蔵、安房、上総
下総、常陸、岩代陸前、陸中、羽前、羽後、
加賀、越後、備後、周防、伊予、日向寺にも
この地名存す。小松氏はこれ等の地名を負ひ
しにて……。

小松部長さん御夫妻は山口県大島の御出身
と聞きましたのでこの周防の小松氏の出では
なからうかと思ひます。更に辞典には小松宮
に就て次のように記してあります。

小松宮、洛西葛野郡御室の地はもと小松と
曰ひが如し。而して仁和寺の御開創、光孝天
皇を小松帝と申し奉るも、この地名を負ひ給
ひしものかと考へらる。明治の初め、仁和寺
門跡純仁法親王復飾し給ひて、伏見宮に帰し
東伏見と称し、また小松宮と改めたまうも、
旧住に縁み給ひしなるべし。

皇室系譜に「小松宮第一代彰仁親王。邦家
親王の第八王子、母は家女房堀内信子。弘化
三年三月十六日誕生、豊宮と称し、嘉永元年
正月二十七日、仁和寺を相続、同年四月五日
仁孝天皇の養子と為り給ひ、安政五年三月二
十三日、名を嘉彰と賜ふ。同月二十七日、親
王となり、同年九月二十五日仁和寺に入り落
飾、法名純仁、慶応三年十二月九日復飾、同
日十六日、名嘉彰に復し明治元年三月十七日

元服、同二年七月兵部郷同年二月一日東伏見宮と称し給ひ、同十五年十二月七日大勲位に叙し同月二十八日改めて小松宮と称し、名を彰仁と改め、同三十一年一月二十日特に元師の称しを賜ひ同三十六年二月十八日蒙五十八才」と二代依仁親王に至り東伏見宮と称し給ふ」とあります。

小松部長さんも小松宮も恐らく地名からの姓で血縁関係があつたかどうか知るよしもありませんが、この二代依仁親王とハワイ王家に面白いエピソードがあつたことを多くの日本人は知らないようですので山本ハワイ報知新聞社長のハワイ王朝秘話を左に掲載しましょう。

日本と婚姻同盟をすぶ案

ワイキキの浜と波乗り、椰子の木陰のフラダンス——ハワイといえ、日本人はすぐにそれだけを連想する。しかしハワイは、いまでもこそアメリカ合衆国の一州であるが、七〇年あまり前まではカナカ族のキングに統治された独立国であつた。ハワイ王朝は、ハワイ全島を征服して王朝の基礎をかためた第一代カメハメハ大王から、第八代リリオカラニ女王までおよそ一〇〇年間つづいた。のち革命がおこって共和国となり、一八九八年にいた

つて、ついにアメリカに合併されたのであるが、ここに紹介するのは、いまから八〇年余年前、太平洋の波まに浮かんではかなく消えた「ハワイ王朝と日本皇室の秘話」である。

第七代カラカウア王は、一八七四年（明治七年）王位についたが、子供がなかったので王妹リリオカラニをあと継ぎとした。王はつとに、アメリカ合衆国の真意がどこにあるかを察し、王国存続のためには、フランス・オプ・パウ政策が絶対に必要だと考えていた。しかし、内閣員のほとんどが欧米合作派であるため、彼が腹をわって相談できるのは妹のリリオカラニのみであつた。そして、兄妹がひそかに考えたのが、同じ黄色人種であり、同じ君主国である隣国日本と、かたく手をにぎることだつた。このような環境の中から生まれたのが、ハワイ王室と日本皇室との間に、婚姻同盟をむすぼうという案である。これは、単なる気まぐれや思ひつきではなく、ハワイ国の独立保全とその王朝繁栄のために唯一無二、絶対必要の名案としてたてられたものだつた。この案は日本から謝絶されたがカラカウア王、リリオカラニ女王の二代にわたつてその希望を捨てず、むなしく期待しつづけた形跡のあるのはあわれであ

る。

秘策を胸にハワイ王の訪日

一八八一年（明治一四年）、日本・ハワイ同盟の秘策を胸深くおさめたカラカウア王が、侍従ジャッド大佐、外相兼移民総官アームストロングなどを従えて東京に到着したのは、まだ桜に早い三月のはじめであつた。日本では、外国の王さまの訪問は空前の盛事であるとして、東京湾に二隻の軍艦を浮かべてこれを迎え、王の上陸にあたつては軍楽隊がハワイ国歌を吹奏した。三月五日、王は赤坂の離宮で明治天皇に謁見し天皇もまた、ただちに王の宿所にあてられた芝浜邊館（のちの浜離宮）に答礼された。王はそれから数日間東京市内の名所旧跡の見物をつづけたが、その間ずっと、婚姻同盟、提言の機会をねらつていたのである。王の接待主任で、英語に通じた侍従長崎宮内書記官のはからいで、ついにその機会を得たのは三月一〇日であつた。史実はつぎのように伝えている。

「ころは明治一四年の早春、離宮の庭には紅梅白梅咲きみだれる折しも、明治天皇陛下に対したてまつり、密々謁見をたまわりたいと内請する者あり、誰あらん、時のハワイ国王カラカウアなりける」

すでに公式の謁見も答礼もすんでいるのに急に密々の会見とはなにごとであるう？と天皇はご座所に立って王を迎えられた。王は外相も侍従も随行させず、ただひとりだった王はまず突然の訪問をわび、日本入国以来の款待にお礼をのべたのち、長崎書記官の通訳で、ハワイの国情をくわしく説明した上で、

「このままでは、わが国のゆく末も案じられますのに、悲しいかな、私には王子がありません。ただいま王位の後継者となっております妹リリオカラニにも、すでに四二才となり、結婚はしておりますが子を持ちません。

幸い末の妹リケリケにカイウラニと申す姫があり、六才の幼児ながらとても利発に生れついております。願わくば、この姪に配するにプリンス小松をもつてし、ゆくゆくはわれらの後継者として、永久に両国の親善を計りたいと存じます。なにとぞ特別のご配慮を」という思いがけない申し出に、さすがの明治天皇もびっくりなさって、すぐには返答ができなかった。同士の者ともよく協議した上でとくと熟考してからご返事申し上げる、というところで会見は終った。

白羽の矢をたてられた小松宮

小松宮はこのとき一五才であった。カラカ

ウア王は、どうして小松宮をと名指して懇請されたのであろうか。のちの海軍元帥東伏見宮依仁親王の伝記の一節に、

「親王がまだ小松宮として海軍兵学校在学せられたる一五才のおん時、太平洋の楽園と呼ばれたる国の王がわが国に來遊され、一日兵学校を參觀したおり、ご立派な宮を見て心動きたるものか、一夜明治天皇に謁し、人をしりぞけて、世界の形勢など語りあわれたる後かたちをあらためて、宮をその継嗣たる王姪の配偶として迎えたいきむねを申し出でられた。」

と記されている。またカラカウア王に随行した外相アームストロングがのちに発表した旅行記の中に、つぎのような一節がある。

「この日、王はわれわれに一言のお話もなく通訳の書記官と二人で天皇の宮殿へおいでになった。この秘密の行動は、絶体に信頼されていたはずのわれわれには、理解しがたいものであったが、ハワイに帰ってからわれわれは真相を知った。すなわち、王はポリネシア民族特有の考え方から、日本皇室との間に婚姻関係を成立せしめようと計画されたのである。王はアメリカ合衆国が近き将来、ハワイ王国を征服するかも知れずという危惧を抱

いておられた。ゆえに、カイウラニ王女に日本の親王を婿として迎えて王の後継者となし日本政府の後援を得てアメリカとハワイの合併運動を破らんとされたのである。もしこの計画が日本天皇によって承諾されていたら、ハワイは日本領土となる経路をとっていたであらう」

謝絶の特使をハワイへ派遣

王の申し出に対して「熟考の上で返事する」と約束された明治天皇は、時の外務卿井上馨侯らと慎重熟議されたが、外交上アメリカの勢力圏に立ち入らぬほうがよいとの理由から、一応王の申し込みをことわることにした。そして翌一五年、長崎書記官が天皇の特使としてハワイに派遣された。三月二〇日長崎特使がホノルルに着いたその夜、カラカウア王は、大きな希望に胸をふくらませながら、リリオカラニとただ二人だけで特使の宿所に足をはこんだ。

「さて、天皇のご返事は私にとって、よいニュースでしょうか、それとも悪いニュースでしょうか」長崎特使は、にしきのふくさに包まれた天皇の親書をとり出して王にささげ、「日本皇族は、いまだかつて外国の皇室と婚姻関係を結んだためしがたい。王の心中は

お察しするに余りあるが、皇祖の遺訓であるからせひもない。しかし私は、日本とハワイ両国の親善が永久につづくことを希望する」という意味の内容を英訳して伝えた。王兄妹の失望は、見るもあわれであった。長崎特使は見るに見かねて、

「春が来ればまた花が咲くこともあります。時機をお待ちになるように……」

となくさめた。王兄妹は、この言葉に一縷の望みをつなぎ、特使一行の帰国に当り、王から小松宮へのおくりものとして、駿馬一頭が託された。

このときの天皇の親書は、王の手でどのようにに始末されたものか、ハワイ古文書保存館にも残っていない。

むなしく吉報を待ちつづける

やがて健康を害した王は、一八九〇年、リオリカラニを摂政として政務をゆずり、療養のためアメリカの軍艦チャールストン号でカルフォルニアに旅行したが翌年一月サンフランシスコのパレスホテルでその生涯を閉じた。訪日後十一年めのことである。リオリカラニは王位を継ぎ、当時ロンドンに留学中の姪カイウラニを後継者として、いつ来るとも知れない日本からの吉報を待ちつづけた。

しかしリオリカラニ女王は一八九三年（明治二十六年）一月一日、アメリカ軍艦ボストン号から上陸した陸戦隊の示威に屈して王位を退き、カメハメハの建国以来一〇〇年余つづいたハワイ王朝は滅亡した。それから六日めの二十三日突然日本の軍艦浪速がホノルルの沖合に姿を現わし「日本の軍艦がハワイの王党を助けに来た」と全島民を狂喜させた。浪速の艦長は東郷大佐（のちの平八郎元帥）で、明治天皇からハワイ王朝への親善使節として送られたのだったが、このときすでにハワイ王朝は存在していなかった。

この浪速に小松宮が海軍少尉候補生として乗っておられたのは奇縁だが、カイウラニ姫はこのときロンドンにあり、ついにふたりは相見ることがなかった。

薄幸の佳人カイウラニがハワイに帰ったのは一八九八年（明治三十一年）の夏で、アメリカとハワイが合併する直前だった。かの女の目にうつる母国の山河は同じでも、王朝はすでになく、敬愛するリオリカラニは、王党最後の反撃戦に破れ、幽閉の身となっていた。八月十二日、晴れやかな合併の式典が行われた当日、かの女はワイキキの仮住居のベツトに泣き伏したまま、再びたつことができ

なかった。そして翌年三月芳紀二十四才で世を去った。

かの女が十一才のときからおつき女中としてつかえた青木リヨ刀自は百余才の長寿のち数年前に他界したが、生前筆書に語って「おかわいそうに、姫さまはまだ見ぬ恋にあらがれて恋わずらいをされたてじやよ。高熱にうかされて、うわごとばかりおっしゃったげな。何年も待たされたんじゃけ、むりもない話でしょうが……」

と、老いの目をしばたいた。

先月号の聖徒の道で私が御紹介申上げた前伝道部長夫人アンドラス姉妹のお父さん、パールハーバー・ステーク部のパーカー祝福師はこのハワイ王家の出身と聞きましたが、私はこの度のハワイ訪問の時、晩餐会でパーカー御一家と親しく語合う機会を得たのです。が、何だかパーカー祝福師は肉親のお父さんのような、またパーカー姉妹はお母さんのような親しさと親近感を覚えたのは不思議でした。またその息子さんのパーカー兄弟が横浜に寄港した時、まだ見たこともない私を家にわざわざ訪ねて来て非常な親しさを示すのは、ただ会員としてだけでなく何か非常に身近なものを感じます。

それにつけても考えられるのはモルモン経アルマ書に書いてある、ニーファイ人ハゴツが船を何隻か造ってニーファイ人が船に乗って北方目ざして船出したが何れも帰って来なかったことであります。多分これがハワイにも、日本にも漂着したのではないかと思われます。現に宮崎県に天の岩船の遺跡があると聞いておりますが、ハワイにも同様な史話があるそうです。実際にハワイ語またはサモワ語などの音声などは非常に日本語に近似しており、言語学者は日本の古語がニューヘベリス諸島の首島エファテ島の言葉と同一系統であることを証明しております。或人々は南太平洋上のミュー大陸が陥没してその民が南洋諸群島に残ると同時にアメリカ大陸やハワイや日本にも移り住んだので、アメリカインデアンと日本人はよく似ていると言います。

旧約聖書によるとマナセの一部はルベン、ガドの子孫と共にヨルダンから東方に向いそれが遠く極東に迄来たことも考えられます。東西どちらから来たにせよ、日本人の中に多くのマナセの子孫がおることは確かで現に今日、真曲瀬と云う姓があり東京にはマナセ橋もあります。

ハワイにハゴツの船のニーファイ人が上陸

したことがたしかであるとすると多くの日本人とハワイ人は同じマナセの族であり、そこに肉親のような親近感を感じるのはないでしょうか。

パーカー祝福師はラナキラワード部（前月号に紹介した）の献堂式に話をしておられた時に心藏麻痺で劇的昇天をされたそうです。日本の或指導者たちがわずか数週間前に彼から祝福を受けたことは、ほんとうに大きな祝福であったと同時にパーカー祝福師もお父様のお傍でそのことを満足に思っておられることでしょう。

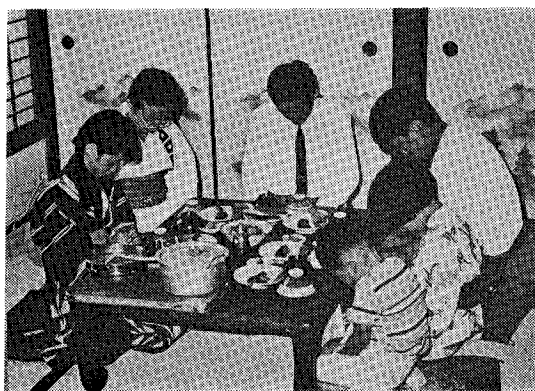
往年にハワイの王族と日本の皇室が惜しくも、結ばれそになりましたが、今日、ハワイの兄弟姉妹と日本の兄弟姉妹は主キリストによって結ばれて、一つの神の王国を建てるために共に力を合せて働いております。

主がハワイから小松部長さんを日本の地に召されたのはハワイ人と同一の先祖である私たちの先祖を探求し、多くの先祖たちの救手となつてこの日本の地にハワイと同様に、主の神殿を迎え神の王国を進展させるためではないでしょうか。

見よ、彼はオルヴェントの山の上、いと深き大海の上、海の島々、シオンこの地の上に

立たん。

兄弟姉妹の皆さんの一人々々が自分の先祖探求に着手されんことを心から祈り念願致す次第であります。



奈智江ツネ姉妹の

あとを訪ねて

佐 藤 竜 猪

ハワイ、オアフ島、ライエに着いてから私はハワイにおけるモルモンの日本人開拓者、奈智江姉妹のことを聞こうといういろいろの人をたずねてみました。しかし、ライエに奈智江姉妹が来られたのは今から約四十二年ほど前で、ライエにいる日本人は（私の知るかぎり）四五人にすぎない上に、奈智江姉妹のことをくわしく知っている人はほとんどありませんでした。しかし、そのわずかな人々の一人であるライエの床屋（ライエに一軒だけ）

の松浦おばさん（年はもう七十いくつか）のところを度々おとずれた末、奈智江姉妹のお墓のある所がわかりおまいりをする事ができました。お墓は神殿の北西の方に当るモルモン墓地の中にあつて、奈智江姉妹の生れ故郷である山梨県からとりよせたと言われる（池上吉太郎兄弟談）立派な墓石でできていました。日本の墓地の様子とはちがひ、まわりにはほとんど墓碑が建つておらず、ひろびろとした敷地の中に碑が立っていて、そのまわりには黄色の花をつけた熱帯の草が生いあげていました。私はここへ四度おとずれましたが、最後には神殿詣でにおいてになった奈良兄弟姉妹、渡部兄弟姉妹と一しょにおまいりをする事ができて、互いの結縁の深さをしみじみと悟り、開拓者奈智江姉妹がライエの地へ来られたことの意義を知らせていたでいて心から感謝いたしました。（その時の写真は聖徒の道九月号四六二頁にのつていますからごらん下さい）。

また前に言った床屋の松浦おばさんから奈智江姉妹の墓碑建立当時の記念写真を贈られましたので（聖徒の道九月号四五七頁参照）、これを便りにいろいろの方に会つてたずねた末、ホノルルのアヌイワード（小松伝道部長

のホームワード）に行つた時、昔日本へ宣教師になつて伝道に来ておられたクリステンセン長老（息子さんも同じく日本へ宣教師になつて来られた）に会い、奈智江姉妹のことをうかがつたところ姉妹をよく知つてゐる人があるからと言つて「メアリ、松本、パウエル」という一人の姉妹を紹介して下さいました。次は同姉妹が私あてに手紙のかたち（英語）で書いて下さつた奈智江姉妹の思い出であります。

「千九百六十五年五月二十三日。
佐藤さま。

このたび、奈智江姉妹がハワイに住んでおいでになつた間の生活のようをいささか筆にすることを私にゆるして下さいましてありがとうございます。

私は、たしかに私以外の方々も思つていらっしゃるやうに、奈智江姉妹を私の第二のお母さまだと思つてゐます。

姉妹は私の両親をよく知つていらつしやいました。そして私の家をほんとに度々訪ねて下さいました。私の両親は奈智江姉妹の亡くなる前に亡くなりましたが、私は奈智江姉妹を知つて親しく交際させていただいたので今日善い人間になれました。

私は、毎年姉妹の命日（五月三十日）にはかかさず姉妹のお墓まいりをいたします。私がお今日あるのはほんとに姉妹のおかげです。私はこのような気高い心のお方と知り合いになったことをいつも「天の父なる神さま」に感謝しております。

メアリ・松本・パウエル

「奈智江ツネ姉妹の思い出」

奈智江姉妹は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員でした。姉妹は長い間クリスチャンでしたので聖書のことはよく知っていました。が、一つ腑（ふ）におちなかったのは、なぜ幼な児にバプテスマをほどこすのかと言うことでした。しかし、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師に会って福音の教えを聞いたとき、始めてバプテスマのほんとうの意味がわかり、そのときから幼児洗礼の問題がすっかり解決いたしました。そこで罪のない幼な児に洗礼をほどこす必要のないことがわかり、私どもの教会で、小児が満八才になったときにバプテスマをほどこすという教えを理解してこれを受け入れました。

奈智江姉妹が末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になったときは約四十才でした。姉妹はそれから伝道本部の宣教師たちのために

コックとなりましたが、姉妹は自分の仕事も宣教師たちも大へん愛して本当にみんなの宣教師たちの「お母さん」でしたので、宣教師たちから大そう愛されました。

奈智江姉妹は聡明な方でした。姉妹は独学で日本語の読み書きをおぼえ、よどみなく話しました。そして宣教師たちと一つ家に住んでいましたので福音を完全におぼえました。姉妹はモルモン経を好んで読み十二回も読み通しました。そしてモルモン経を見ないでも、その中から多くの聖句を引くことができました。

奈智江姉妹はふつうの日本婦人たちがって違（ちが）いせず思（おも）ったことをすばずばと言う方でした。正直で誠実でしかもユーモアのよくわかる方でした。

姉妹がどこへ行ってもまた何を言っても、人々はそのことばに耳をかたむけ、姉妹を大へん尊敬しました。

奈智江姉妹は、私どもの教会の会員になったその日から、神と人々のために一生をささげて働（はたら）きました。

千九百二十三年、エルウッド・クリステンセン長老とクリステンセン姉妹とが宣教師として日本においてになったとき、奈智江姉妹

は神殿の儀式を受けるためにハワイへ来ました。

当時の神殿長ワズープ長老とワズープ姉妹とはホノルル港の船上で奈智江姉妹に会い、姉妹をライエに伴（とも）なって来て、当時そこにあった「ミッショーン・ホーム」に住まわせました。奈智江姉妹はライエに来てまた宣教師たちと生活することになったので、大へん気が楽（やす）でした。

姉妹はライエに着くとまもなく神殿で自分の「エンダウメント」を受け、それからひきつづいて長い間神殿の儀式を（身代りとして）受けました。

ワズープ姉妹は親切にやさしく、神殿の儀式が神聖で大切な儀式であることを教えて下さいましたので、奈智江姉妹はそれがはつきりとわかりました。

奈智江姉妹はごく短い間に、ライエの人々に知られ愛されるようになりました。ライエにいた日本人の多くは教会の会員でありませんでした。が、だれでもみな姉妹のすばらしい感化の力を感じて、みな姉妹と良い友だちになりました。

奈智江姉妹はまた神殿の庭の案内をする役をつとめました。姉妹は神殿を訪（たず）ねる多く

の日本人に神殿の目的と福音とについてたくさんのお金を話すことができました。そして自分のお金を出して買ったモルモン経をたくさんこの人々にあげました。また奈智江姉妹はマウイ島とハワイ島にわたって宣教師のたらきをしながら、しばらくの間おりました。

奈智江姉妹が一番喜んでいたのは誰かに福音を教えることであり、そのほかに一番幸福に感じていたのは自分が誰かの役に立つと思っていたときでした。

姉妹がホノルルへ永住するようになってからは、そこで人々に親切と善行を施したことがたくさん知られています。病人があるとその家へ行って何度も何度も家族と同居して助けました。もしも母親が病氣にかかっていると、家事をひき受けて家族の世話をしました。とくに、生活を向上させようとして努力していた地方の日本人家族のところへ行つて助けました。カカアコ地方の父親たちは多く漁師であつて、たくさん問題をかかえていましたが、その地方で奈智江姉妹のした慈善行為は多くの人たちから感謝されました。

有名なお医者さまの母に当る方が、奈智江姉妹のなされたこのような愛のはたらきに大

そう感心して尊敬をなされた上に、姉妹がなければなしのお金を使つてほかの人々を助けているのを知り、そのことを息子のお医者さまに話しました。細井清医師はその話に心を強くうたれて、奈智江姉妹を生涯無料で診療すると約束しました。そしてその約束通りに自分の知っている最上の診療を施しました。

千九百三十四年の春、エドワード・クルソールド長老、エウッド・クリステンセン長老池上吉太郎長老はハワイ在住の日本人たちに福音を宣べ伝えるために末日聖徒イエス・キリスト教会の伝道部を置く必要があると思ひました。

始め伝道部はごく小さいものでしたが、次第に大きくなって今日は多くの日本人の会員があります。これはそのようにして伝道部ができたからであります。

奈智江姉妹は初期の時代は、毎日曜日、日曜学校に出席して年配（ねんばい）の日本人に福音を説いてクリステンセン兄弟を助けました。姉妹の福音に関する知識は大きな財産であつて、誰でもみなその大きな価値を認めました。

奈智江姉妹は、その生涯の最後の十五年間をハワイで過して主のみわざに従いました。

そして八十才になって間もなく千九百三十八年の十二月の三日に亡くなりました。そして亡くなる二日前に、死期を悟つて床のかたわらに神殿の装束を置きました。

奈智江姉妹は福音を大そう愛して、ほかの人たちは福音を本当にわかつてもらいたいと思ひました。それで臨終のときにクリステンセン兄弟に言ったのは、或る兄弟は永遠の生命のことが本当にわかつていないから、どうかあの人にそのことについて説明してあげて下さいということばでした。

奈智江姉妹は亡くなってから、多くの聖徒たちが眠るライエの墓地に葬られました。

末日聖徒の一人として私は、奈智江姉妹のすばらしい働らきは此世で終つたのではなくて、あの世においてもやはり宣教師の働らきをつづけておいでになることを知っております。

奈智江姉妹は今もなお、姉妹を知っている人々の胸の中に生きて愛されています。姉妹をよく知つておいでになった人々の中にはクリソールド神殿長御夫妻、エリウッド・クリステンセン兄弟夫妻、池上吉太郎兄弟、武内兄弟夫妻および私（メアリ松本・パウエル姉妹）などがあります。

ふりそそぐ

光の中に

あかし

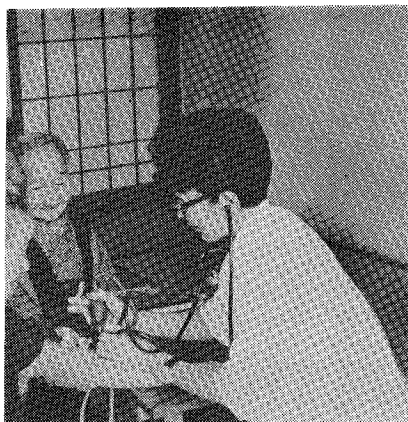
小林都代子（松本）

「しかし彼を受け入れた者、すなわちその名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」

（ヨハネによる福音一章十二節）
全国の兄弟姉妹の皆さんお元気ですか？……

私は今日ここに再び証詞をのべる機会に恵まれましたことを嬉しく感謝致します。想い出もなつかしい二年前の今頃、私は長男修と親子で病院に入院しておりました。そんな或日、ふっ／＼と、車中でめぐり合った「愛」豊かなライザー長老と、グバラ長老に導かれ、入院中にもかかわらず教会の門をたたきました。たいくつな病院生活もモルモン経を読むことにより短かく感ずるようになりました。また週二回遠く松本から大町市のこの病院を尋ねて下さる長老。夜、消燈すぎ迄熱心にくり返された家庭集会の数々……長男の退院後（私はまだ入院中）親子三人で、九月八日、大管長九十才の誕生日の日、偶然にもバプテスマを受けるようになりました。間もなく主人も……続いて秋の東京大会ノ長老たちと主人や長男長女にともなわれて、家族一同がああ白く高々とそびゆる、生ける教会堂（北支部）の前に立った時のあの感激ノまた、ライザー長老の御両親に招かれ埼玉県所決市のジョンソン基地外人教会での二泊三日の、想い出……。帰院し間もなく退院は許可され、退院後は自宅を開放し、英会話と家庭集会の場所としました。大勢の学生の中から、次々と、五人の兄弟たちが誕生され、長老の御苦労も一しおながら、すべては祝福でした。寒さは強くやがて北風に雪がちらつく師走のある日、現在の宅地が或る人の紹介で購入出来クリスマススの日土地は当時の支部長ノートン長老に、よって歛入れ式の儀式が行なわれました。





翌年の三月早々住宅公庫借付金は運良く一度でパスし、五月から建築が始まる予定となりました。その四月一日、突然私の勤務は小学校へと変りました。五月五日より新築工事が始まり、建前の儀式にも、ノートン長老とリー長老が訪問してくれ、珍らしい外人が二人も屋根から「カラコ餅」をなげるので近所の奥さんや子供たちは大喜びでした。次々と組立てられてゆく我家は、若い大工さんたちの「オリンピック音頭」で、いかにも明るく、またいかにも楽しく進行されてゆきました。この年は例年になく梅雨期も短く仕事は予定

よりぐんぐん進み、その上、私は勤務が学校ですので農繁休暇もあり夏休みもあるので、引越し前の忙しい家庭生活には大変と都合が良く感謝の日々でした。

バプテスマを受けたあの頃から私たち家族は、この様な祈りをしていました。

「神様どうぞ、貴方様のみ心であるならば、私たち家族の住む土地と、家とを与えて下さい。どうぞ九月八日バプテスマを受けた日までに……。」と、私たちの新築のために遠く埼玉県のジョンソン基地ライザー家御両親から様々の外国製の洋間セットや二人の子供のベットまで送られて来ました。主はあらゆる人を通して、物を通じて、限りなく導びき、祝福して下さることを強く感じ、唯々感謝の日々でした。

真夏の燃ゆる太陽の下に、カンナの音も、ノミの音も終日軽く、若い大工さんたちはフットに満ちて、相変らずオリンピック音頭にはずんでおりました。思いもよらない人々の愛と奉仕と若さによって急速に工事は進み、九月五日、見事に完成されました。六日引越し。私達は木の香もゆかしき新居で九月八日を迎えることが出来ました。この余りにも偉大なる神の奇すしき御業を思う時、唯、

敬服と驚嘆あるのみでした。新らしい街の隣組の人々は、口々にこの様なことを言いました。「小林さんは運の良いお人だ、あの家は最初から終りまで景気のいい、オリンピック音頭で出来上った家だもの、そしてまた大工さんからシャ官さ、まで若手揃いで……。」と、本当にすべてが恵みであり祝福でした。

(モルモン経ニーフай三章七節)

「私は主が命じたもうことを行って行う、私は、主が命じたもうことには、人がそれを為しとげるために前以って、ある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである。」

× × ×
試練に耐えて

祝福された土地、祝福されてる新居、毎日毎日は楽しく唯感謝の明暮でした。やがて信州の秋が深まり、足早な冬が訪れました。

十二月三十一日、年取りは日本特有のささやかな手料理で去年も、また今年も支部の長老を全員招き共に、行く年への感謝と、新らしき年への祝福とを祈り合いました。

四月一日、学校勤務の私にまでも、辞令が出ました「大町老人ホーム勤務を命ずる」と

今迄市役所に七年も同じ仕事をしていた私なのに、なんと、昨年からは一年毎に転勤？……何故だろう？……しかし、それがたとえ優待であろうと、左遷であろうと、一両日に転勤しなくては、ならなかったのです。「老人ホーム」そこは他人が外部から眺め想像するような優しいものではなかった。ホームには、四十八人の薄幸な老人たちが私の来院を歓迎してくれました。おしの夫婦、失眠の老婆、半身不随の老人等八人も病人。しかも今日にも他界しそうなあわれな有様でした。私は毎朝各ホームを一廻りし、健康状態を観察しながら血圧を測り、注射をし、薬をもち、老人たちの目を洗眼し、給食の献立表を作り、その他種々身の上の相談にも応じなくてはならなかった。物質的には一応の充足感があっても、精神的にはお互いに孤独でさみしい老人たちでした。

洗濯日、入浴日には、手不足な寮母さんたちのため手使はなくてはならなかった。一日の勤務は精神的にも肉体的にも大変で、ずっと疲れ果てました。その上、四日に一晚は一人で当直ノ病人のおむつをかえ、夜中の見廻り、それは想像しつくせない激務でした。重い心と、体とを、ひきずるような毎日

の明暮……私は健康を、そこね教会では子供日曜学校の責任を持ち乍ら、出席の出来ない日々が多くなり、私は暗く考え、悩みました何時か或る妹姉から「信仰が高くなればなる程サタンの誘惑もまた平行するものである」とききました。体の弱い私は、幾度か幾度か悩み、ある日とうとうホームの所長にその理由を話しました。しかし四月以来着任したばかりの所長には何んの方法もなく。「人手不足なのだから我慢してくれ」と言うだけでした。

私は、それ以来、人知では、とうていどうにもならないことを、神は御自身の力によって、なさしめることを信じておりましたので、家族と共に祈りました。ある時は一日中一滴の水も飲まず断食をして祈りつづけた日も幾度か……ひと時は、もう駄目だと、あきらめ失望しました。しかし一つのホームで、毎日生活を共にしていると、老人たちとは、日増しに親しく、人間関係は深く結びつければ、こまやかな人情に、仕事は益々オーバースるばかり、夜、床に着く時の私の祈りは何時か日増しに、自分のことを忘れ、あわれな老人たちへの平安を願う、祈りとなり、その祈りは長く深かった。

主は私をこのホームに送り、私の身に、心に、足りない何物かを、このきびしい体験によつて得よノと、試練しているのだろうか？最近では金銭的にも精神的にも割り合にぜいたくになれすぎた私にとって、このホームでの生活は実に意義深いものであり、毎日毎日が自己反省の尊い体験でした。良きにつけ、悪しきにつけ、人生の縮図を見る様な日々でした。

ほとんどあきらめきっていた六月二十八日突然本庁から電話があり「至急本庁に向かうよう今日の十時に市長より辞令が出る」とのこと、私は夢かとばかり驚き舞うような思いで本庁に車をとばしました。受けた辞令は正しく「本庁勤務命令」でした。しかも私が久しく望んでいた第一希望の課でしたノその辞令を胸に抱き、私は腫をつぶり長く長く祈りました。わずかに三ヶ月足らずで転動になった私は、友人たちにうらやまれました。「貴女はよっぽど運の良い人ね、やっぱり信仰の賜ね」と、私は苦しかったあの頃「神様もし貴方様のみ心であるならば転勤させて下さい。宿直と日直のない課へどうぞ保健衛生健康管理係に、もしもこの願が叶えられたら、主の栄光をたたえる小さき器として、私

の受けた恵みと祝福とを聖徒の道に出して頂き、広く世の人々への証詞と致します」と、全国の愛する兄弟姉妹の皆さん、家族の祈り、断食の祈り、個人の祈りこの聖なる祈りが如何に必要であるか、またそれにより人知では、とうてい計り知ることの出来得ない偉大な神の力とをよくよく考えて見て下さい。私は今、ファイトと誇とを持って三万五千の市民のために毎日毎日ジープにゆられ、ツベルクリン、BCG、レントゲンと結核予防のため、また、日本脳炎、ジフテリア、百日咳予防注射のために野を越え山を越え、町や村の公民館で活躍しております。私は本当に信仰の小さい者ですけれど、神が生きてましますことを信じ、職場と家庭との両立の前に、ほんの小さな責任ですけれど今日まで満二ヶ年務めさせて頂き感謝しています。今はともすると、不活発になり勝な私共ですけれど、神は尚此のおろかなる者をも心に止め、顧みて下さることを重ねて感謝します。今、更に一つの試練に直面しています……。それと共にまた素晴らしい夢の様な導びきが長女、俊子の身の上に現れ私共は余りの話に、おそれおのきましました。然し主にすべてをゆだねている今は、唯々、み心のままであれかしと祈

るのみです。どうかこの話が主の導びきであり、主のみに叶うものであり、再び大きな証詞となることが出来ますよ努力致します。どうぞ愛する兄弟姉妹の皆さん末の日です。サタンの誘惑も更に大きく強くのびています。今こそ、共に力を合せてガンバリましょう。どうぞ教会から離れた友のために、また悩みある人、病める人のために力をおかけ下さい。祈って下さい。

全国の兄弟姉妹の皆さんどうぞ信州に参りましたら、北アルプス連峯の一目で見えるこの私宅へお寄り下さい。そして共に主の道を語りあかしましょう。

「求めよそうすれば与えられるであろう。捜せ、そうすれば見いだすであろう。門をたたけそうすれば開けてもらえるであろう。すべて求める者は得。捜す者は見いだし、門をたたく者はあけてもらえるからである。」

(マタイ伝第七章七節……八節)
すべてを尊き主、イエス・キリスト様の御名により感謝して証詞致しました。アーメン

住所 長野県豊科町南豊科駅西隣

読者のすすめ

秋は実りの季節、稲、柿、栗その他自然は私たちに一年の成果を眼前に示している。ここで私たちは秋の夜長に読書を楽しむと思う。読書と知的発達について、末日に示された教義には次のように書かれている。

「……汝ら努めて求め、互いに知恵ある言葉を教うべし。然り、汝ら最も善き書より知恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求めし。」と

また信仰箇条十三条にあるように、善き聞えあること、を知り学ばなければならぬ。更に学修研究してあらゆる善き書に通じて行くようではありませんか。

人生の秋がやって来たときにもう遅いと嘆くことのないように故きを温め新しきを知ろうではありませんか。(M・T)

主の御業に血を流す

横浜支部投稿

。汝の十字架を負いて我に従へ、生命を得る者はこれを失ひ、我がために生命を失う者はこれを得べし。
八月二十四日火曜日、今夜も横浜支部は建築の日で六時半から八時半迄、兄弟姉妹は白樂の岡の上の建築現場に楽しく集う日でありました。毎週火曜日と金曜日の夜は建築の日で扶助協会は夏休みを利用して協力しました長老定員会も第一週と第三週の定例集會を建築の日とし、また七月と八月は学生の夏休みを利用して建築キャンプを實行、東京の支部から活発な兄弟が宿り込みで、灼熱肌を焼く炎天下に、玉なす汗を拭いながらハンマーの音は大空高くこだましていたのであります。特に支部長會は率先垂範、かがいいしい斎藤支部長、遠藤、岡本両副支部長の姿は十名近くの勤労宣教師の姿と共にいつも現場に見られ兄弟姉妹の励ましとなっていたのであります。

今夜も岡本亮兄弟は時間前から来てさっさと仕事を始めておられたらしい。そして間もなく、いつもそのたくましい体軀で兄弟の模範として活動している浅間玄也兄弟もたのしいその姿を現わされたのだ。聖書にいそむ信仰の兄弟が喜びの手を握り合つたその瞬間、誰知ろう、床に穴があいていて二人は一体となつてもろともに三米下のコンクリートに墜落したのであります。

。そは主、その愛する者を懲しめ、凡てその受け給う子を鞭うち給へばなり。

最も信仰の強い、常に先頭に立つてこの聖業に献身していたこの二人の兄弟が何故突然このような事故に逢うのでしょうか、私たちにはその深いところをおしはかることも出来ませんが、只この堪え難き、火のような試練の中にあつてこの二人の兄弟が磐石の如き信仰を以て如何に雄々しくよく堪え忍んで来たか、附き添つた一人として皆さんに報告させていただきたいと思ひ筆をとつた次第であります。

二十四日夜、私は家庭集會に出席したため少し遅れて急ぎ足で現場に來ると中央支部からビルディング・キャンプに來ていた園田兄弟が入口の近くに沈んだ顔をしていました。もう始まっているんでしようと呼びかけると静かな声で、「岡本兄弟と浅間兄弟が怪我されたのです」との答え、見ればコンクリートで固められた鉄筋の胴体は気味悪くひっそりと鎮まりかえっています。居合せた宣教師たちと共に早速、病院に駆けつけました処、お二人は手術台の上で手当てを受けておられました。浅間兄弟はコンクリートに腰をひどく打たれたので腰の骨を傷められたようで、苦痛に身動きが出来ず、手術台の上につつ伏せになって居られましたが大きな外傷はなく意識はたしかでありました。岡本兄弟は頭部顔面及び左腕をコンクリートにたたき

——主の御業に血を流す——

つけられたため、左腕骨折、頭蓋骨にひびが入り、上口蓋骨裂傷、顎のつけねの骨が砕け、眼鏡をかけていたため眼の上、鼻の上、咽喉など顔面に数ヶ所の傷を負い、実に見る眼も痛ましい限り、思わず眼を閉じてしまふばかりでした。しかし驚いたことに意識はたしかで、想像もつかない苦痛の中からも、底力のある声ではっきりと医者者に答えておられたようです。私たちには只祈ることしか出来ません。医者者の諒解を得て齋藤支部長は両兄弟に灌油の儀式を執行し、ポキパウ長老と私はそれを結び固めました。

両兄弟特に岡本兄弟の怪我はあまりにも重大なのでこの病院では応急処置をしただけで、兩人とも急救車で妙蓮寺のサマリタン病院に移されました。岡本兄弟の出血は甚だしく、絶えず口から鮮血が流れ出るばかりでなく時々、ドーンと、ボールに何杯となく血を吐き出されました。そのため、敷布や私たちのシャツ迄、血まみれになってしまいました。その真赤な血は主が十字架にかかった時の血を連想させました。その苦しむたるや、われ神すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども、痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両つながら苦しめ、すなわちこの苦ささかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。

両兄弟の苦しみはとても想像することさえ出来ませんでした。それでも一言も苦痛を訴えるような声をしませんでしたので、私たちが思わず「えらいなあ」と感歎の声を発しますと「何もえらくないよ」と岡本兄弟が答えられたのにはほんとに驚きました。

岡本兄弟の顔面ははれ上がり色が青ざめて来ました。医者が重態を告げたので齋藤支部長は、早速高松におられる御両親に電報を打ち、警察官も直ちに警察電話を以て連絡して下さいました。何人かの兄弟たちが進んで輸血のために残りました。仕事のため遠方に在って電話で激まっていた。田中地方部長も駆けつけ、榎倉副地方部長夫妻、特に看護の専門である榎倉姉妹がおられたことは天の助け、齋藤支部長夫妻と共に何人かの兄弟姉妹が夜を徹して看護したのでありました。遠く青森弘前の大学から夏休みを利用して勤勞奉仕に来ていた仙台支部の新田兄弟に支部長が疲れるといけないから少し休んだらと言うと「私は看護させていただきたいのです」と遂に文字通り一睡もせずに岡本兄弟の口から流れ出る血を拭きとってあげたのでした。

——主の御業に血を流す——

浅間兄弟は自分の傷と痛みをもちえり見ず岡本兄弟のことを案じ浅間姉妹も御主人の世話ばかりでなく、岡本兄弟の看護まで手伝われたのです。

明二十五日夕方私は本部からの帰りに寄って見ますと岡本兄弟のお母さんと叔母さんの御一家が見えておりました。田中地方部長は遂に一日会社も休んでいろいろとお世話しておられたようですが、お母さんに病院のお支払いの方は全部教会の方で致しますから御心配ないようにと申し上げた処、「いいえ息子の不注意で御迷惑をかけたのですから」と御遠慮されたとのこと、私はその御謙遜な尊いお姿に眼頭が熱くなりしました。お母さんはここに着かれる迄、神様に只々息子さんの一命だけとりとめて下さるように祈って来ましたがお陰様で助かりましてこんな嬉しいことはありませんと涙を流されました。

それでも重傷なので面会謝絶となり、サマリタン病院でも手術が困難なので横浜市大附属病院に移され、その後引き続き面会謝絶のため案じながらも見舞出来ず、手術の予定日が知らされたので私たちは断食して祈ることにしたのでした。

九月十二日東中央地方部の大会が西支部で行われた時、あの教会堂の前の庭の芝生で大勢の兄弟姉妹の中に御家族を伴ったあのたくましい浅間兄弟の姿を見出し、驚喜して走り寄った時「岡本兄弟も、もう起きているそうですよ。手術の結果がよくて」と聞いた時の嬉しき、眼頭が熱くなってくるのをどうすることも出来ませんでした。

岡本兄弟の場合普通の人がこれだけの重傷を負うたら完全に死亡していた筈ですが信仰により神権によって癒され、浅間兄弟も奇跡的に急速に快癒し、この度の事故で非常に証を強められたとかえて感謝し、もう建築をしたいと張り切っておられるのです。

かつて田中地方部長と丸山第一副地方部長が中央支部の石油コンロで火傷を負って共に渋谷病院で枕を並べて寝られたことがありましたが今はお二人一体となって地方部を脊負って立っておられます。

主は試練に堪えた者の中から指導者を選ぶ、と教えられましたが今度の主の御業の試練に堪え証を強められた岡本・浅間両兄弟の将来の御活躍が期待されます。

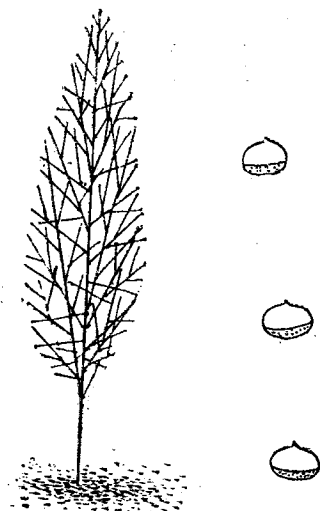
試練に耐うる者は幸福なり、之を善しとせらるる時は、主のおのれを愛する者に、約束し給いし生命の冠を受くべければなり。

五・六・七・八月

— 518 —

ミヤザキ	サチオ	ソノムラ	テルコ	タケダ	ヨウコ	ヤマダ	ミサコ
サカタ	キヨシ	ナイトウ	ヒロコ	横浜		ミヤギ	チエコ
ヨシダ	ヒデカズ	タカノ	フミコ	マツナガ	ミツエ	タイラ	ヒサシ
ハシモト	コウイチロウ	サカキ	ケンイチ	ホシナ	マリコ	ナカヤマ	カツコ
クリシロ	シズエ	東京西		カン	コウジロウ	福岡	
カネチカ	ユキコ	明田川	芳子	オカダ	アキラ	ハラ	ヒサエ
シムラ	ヤスヒロ	種野	トシ子	スズキ	ケイコ		
東京北		江畑	誠一	コウドウ	シゲタダ		
コバヤシ	ヒロエ	佐藤	和子	コスギ	イサオ		
コバヤシ	サワコ	丸子	英美	コバヤシ	ショウジ		
タカハシ	スミエ	本間	千恵子	ハラハシ	カズヨ		
モリ	ソヤ	丸子	澄代	カネコ	ユミ		
サナダ	ミノル	戸島	英夫	那覇			
アマノ	ミツオ	篠原	エミ	アルメ	セイコ		
ヤマダ	ヨシヒロ	松崎	美保子	チネン	エイコ		
ヨネザワ	タカヒト	山形		グシケン	ゼンヒコ		
ナダムラ	ミチコ	カナザワ	キョウコ	イレイ	ヨウコ		
カトウ	トシハル	オヌマ	ヤエコ	ナカマラ	ヨネコ		
阿倍野		タナカ	ヨウコ	ウエハラ	ヒロコ		
タカベ	マサノブ	ワタナベ	エリコ	ナカザト	ハツエ		
東京南		シバタ	ノリアキ	シンカイ	レイコ		
アミクラ	ケイコ	サトウ	キチヒロ	シモジ	マモル		
ヤスノブ	ハルヒコ	金沢		シンカイ	ウメコ		
サトウ	カツヨ	チカダ	ヨシユキ	トカシキ	ネオカ		

旭 川 支 部



(し ぶ だ よ り)

うに聖句カードの作成など新しい会員にも出来そうな仕事を手分けして活発に行なっております。

出席率向上のグループでは不活発会員に手紙を書いたり訪問したりして集会になるべく出席するよう呼びかけております。

求道者のグループ

プではもちろん対象は求道者。宣教師と良く連絡をとって求道者が一人ポツンと居ることのないようにまた玄関では良く歓迎して上げたり宣教師が転勤したりした時、友達が誰も居ない様な状態をなくするためにがんばっております。

親睦のグループもとても活発です。仕事は会員と求道者、また会員相互間の親睦を図るために良く計画します。このグループでは月二回位パーティーを開きます。その一回目が八月の六日、金曜日、教会で五十名位の会員

や求道者が出席して盛大に行なわれました。最初、主催者側は集まりが悪くとても心配しておりましたが少々遅れて来た人などがいて開会后二十分位過ぎた頃には集会場一ぱいに広がった丸いイスの輪からはみ出る人が出た位です。内容はゲームばかりでしたが、ユーモアたっぷりの司会者のために会場は笑いのうず。この日、初めて来た求道者が何人か居りましたが、みんな気がねなく一緒にくつろいでおりました。

この日の準備のためにグループの会員は以前から本当に良く計画しておりました。一時は会場として予約しておいた公会堂がそちらの都合で使用出来なくなりパーティーの二・三日前でしたのでリーダーの方々は大変あわてていたようです。でも無事会員たちとも連絡がとれて混乱なくおさめることが出来ました。また一人のサブリダーの姉妹は、いつもいそがしくて教会のために尽すことが出来ないからと云って、この日の午後からお勤めを早引きして食事の準備をして下さいました。そして会場の装飾も大変美しくグループの方々の努力の跡がうかがわれました。

でもこのようにパーティーが大成功に終わったのは会員一人一人の努力はもちろんですが

全国の兄弟姉妹、暑中お見舞申し上げます。旭川支部では、フェローシップのグループ活動が盛んで、その効果が次第に現われて来ているということは前にもお知らせしましたが今度新しく組替えて四つのグループを作りました。求道者、親睦、出席率向上、図書などのグループです。

図書のグループでは図書の整理や修繕を行い、会員が良く聖句に親しむことが出来るよ

彼らの上に神様の導きがあったからに違いないと思います。このパーティーのために尽した一人の姉妹は本当にもうこの教会から離れたくないと証しておりました。

では皆さんまたこの次に旭川の模様をお知らせします。

横浜支部

日本の地に初めて足を踏み入れた、後の予言者、ヒーパー・J・グラント大管長と同僚の三人の宣教師が横浜を訪れてより、すでに六十四年の才月が流れました。今や、まさに神の栄光の前ぶれとして建築計画が行なわれ、教会堂が各地に立ち並びつつあります。

横浜支部の輸入式がなされてより、早や一年の月日が過ぎました。浜の近状を語りたい思いいます。

☆六月二十日の聖餐会の話はとても有意義なお話でした。福井弥兄弟と田中健治兄弟のお話でした。田中兄弟は先週の大会で新しく東中央地方部の地方部長さんとして支持されました。私たちは横浜支部の会員は心から喜びました。かつて横浜支部の支部長として私たちを愛し導いて下さったからです。会員たちは心から彼を尊敬しております。

☆六月二十七日(日)

朝早く、建築現場の電話のベルが鳴り響いた。吉川長老が受話器を取り、斎藤支部長からの伝達を受けた。

今朝の雨で涯が崩れ幼稚園が使えないので、建築現場で集会をするから、すぐ準備をするように。

建築宜教師は急いで作業着に着替えて現場に出た。地下を調べて見ると水が溢れ出ていて使用出来そうもないので、外の礼拝堂の位置になる所を使うことに定めた。材料が沢山積れて汚れていたのが片附けていると斎藤兄弟姉妹初め、会員が少しづつ来ました。皆さんでコンクリートの床を掃除し、斎藤兄弟の車によって運ばれた椅子を並べました。

評議員の福田真兄弟と田中英男兄弟を迎えて神権会が行われました。世界でもまれな青空教室です。天気が心配されましたが、次第に空は晴れわたり、初夏の日光はサンサンと私たちに降り注ぎました。雨上りの建築現場は風ばう美しく、すがすがしさに満ちていました。教会はまだまだ未完成の部分は多いのですが、すでに一階の床は全部コンクリートが打たれており、ちやうど集会している所は礼拝堂になる位置でした。神権者の一人一人

がまさかこんな所で神権会を催すとは予期しておりませんでした。日頃の努力の結果、その恩恵を蒙ることが出来たのです。

早く教会を建てたい。完全なプログラムを自分たちの教会でしたい。と神権者、共通の願いを思い起したに違いありません。

十一時半から聖餐会が開れました。かつて支部で使われた電気オルガンの伴奏によって讃美歌二四三番「来たりたもう主」を歌い開会されました。聖餐式の歌が歌われ、パンと水が祝福されました。私たちは心から感謝して裂かれたパンを頂きました。救い主があのかるバリの丘で流された血の記念とされた水を頂き、胸に溢れる喜びを感じました。偉大なるナザレのイエスのことを思い起し神様の御前に誓約を新に致しました。不断と違ったこの雰囲気、聖餐のためのクロスがまぶしい程に光っているこの晴天の中の聖餐式。兄弟姉妹の心の中にいつもと違った思いが深く流れておりました。お話は森島道朗兄弟が神殿の儀式について詳しく話されました。その後今日の日にふさわしくパイオニア、この教会の開拓者について板倉秀樹兄弟が話されました。暑さが厳しいためにハンカチを被ったり、雨傘をさしたりして暑さを防ぎました。

あまりの暑さに気分を害する人も出て来ましたので福田真兄弟は話を辞退致しました。無事、聖餐式は終了しましたが、いつもより早目に行なわれたので遅れて来た人のために聖餐式を再び二時から行ない、十五人ぐらいの人が参加致しました。神権者の有志十名ぐらいが涯崩れの若草幼稚園に手助けに行き、四時頃、戻りました。幼稚園の方は非常に喜んでおりました。二時三十分から支部指導者会が開かれました。(小泉記)

お知らせ下さい

助産婦さん、看護婦さん、看護婦見習さん、賄婦さんを求めています

経験は問いません
住込み優遇します

給料 月 2万～3万
その他 手当加算

くわしくは面談で

希望者は履歴書を送って下さい

なお浅川静子姉妹は
中央支部の会員です

住所 東京都世田谷区弦巻町1—6
浅川産婦人科 (420) 0032
院長 浅川美来・静子

▽編集後記△

◎爽やかな秋の装いと共に、実りの秋が私たちを神の造り給う自然の恵みに憩わせてくれます。みなさまの上にもよき実りの秋が訪れていることでしょう。

◎聖徒の道はいま内容の充実をはかるために編集委員の人選を急いでいます。これからほもとともみなさまの御期待に添えると自負しています。乞御期待ノ

◎聖徒の道は今個人発送に切り換え中であります。各支部の役員、教師は率先して個人発送にご協力下さい。

特にM・I・Aの読書課程が聖徒の道となっておりますのでM・I・A関係者はぜひ勧めて下さい。



OCTOBER

We stir up the bubbling
caldron,
And spin Dame Fortune's
wheel.
It is a thrilling occasion,
Even though spooks aren't
real.

—Fern Curtis

GUESS WHAT DAY

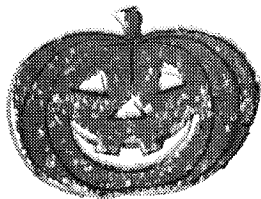
by Sylvia Pezoldt

The first is in HAPPY, but not in SAD.
The second is in PLAY, and also in GLAD.
The third is in LAUGH, but not in CRY.
The fourth is the same. Can you guess why?
The fifth is round like a jack-o'-lantern's
mouth.
The sixth is the letter for WEST, and not
for SOUTH.
The seventh is in EVENING, but not in
DAY.
The eighth is in LEAVE but not in STAY.
With the last letter which starts NOW,
you're done.
It all spells a word that means lots of fun!

HALLOWEEN

Apples and cider and
doughnuts;
These stand for Hal-
loween,
When gypsies and
black cats and
goblins,
And tall white ghosts
are seen.

When bats and weird
scrawny witches
Fly through the spicy air,
When groans and wild
shrieks of laughter
Are heard from every-
where.



Halloween Surprise

Margery Sorensen Cannon



"Twas Halloween night,
and the old yellow moon
peeped cautiously over
the hill. He wondered if
goblins were spooking
about—the night was so
quiet and still.

Oh yes, they were all gathered down in
the park, planning their Halloween fun.

"Let's all try to think of a new game to play," said the king, "one that
hasn't been done. We've played 'Trick or Treat' for the past several years, and
mischief has gone out of style. We've haunted old houses and graveyards so
long—let's leave them alone for awhile."

Then suddenly one of them jumped to his feet. "Let's try our old game *in
disguise*." He whispered his plan and they giggled with glee. The people
would faint with surprise.

The king started writing on big yellow leaves then, grinning, he handed
them out. The moon almost rolled down the hill when he tried to see what the
notes were about.

Instead of the usual—scatter the leaves—one goblin's read—clean up the
town. So he started in raking up leaves by the church and the backyard of old
Mrs. Brown.

Another (who usually wailed with the wind and sang ghostly songs from a
tower) was sent to a party for children instead, to sing funny songs for an hour.

A third little elf-child was given a sack and told that his trick—was a treat.
*Please find every child who is home sick in bed and sprinkle some sweets on his
sheet.*

As each happy goblin ran off to
his task, the moon's big eyes nearly
popped out. "Ho, ho! Ha, ha, hee!
What a shock this will be. Imagine—
a GOBLIN BOY-SCOUT!"



THE NEED AND NATURE OF PRIVACY

RICHARD L. EVANS

Today we would turn to another phase of freedom. We refer to the personal kind of freedom that has to do with privacy. From far back it has been said that a man's home is his castle—a place entitled to peace, protection, and privacy. To quote from some significant sources: "How can you make plain to a new generation that privacy was no mere transient personal mood, but a normal expression of a whole culture. . . . How can you convey to them, that . . . privacy meant neither secrecy, solitude, nor yet concealment; that it was . . . grounded upon a sense of human worth, upon a shy reserve . . . a respect for individuality . . . human dignity."¹ Privacy is something of a "sanctuary . . . 'in which [the] heart, in the bustle and tumult of existence, could take refuge' [in] withdrawal at will from the company and gaze of others; the absence of undesired attentions and intrusions."¹ One of the great blessings of life is living with others, with the associations and contributions of many minds, many gifts, many personalities, many services that make for civilization. But for full sustenance of the human soul there must also be times to retreat, to withdraw within, to shield one's self from confusion, distraction, from rude inquisitiveness, and uninvited intrusion. A man must have the privacy of his mind to think his own thoughts, to search for truth, to make his own choices, to come to his own conclusions. As William Faulkner said it: "One lacking privacy cannot be an individual."² We all need times for reflection, for personal searching, for personal pursuits, for dignity, respect; for freedom from the noise, from the affront of loud voices and distracting influences, from the shouting and insistent persuasion. We need time for the close, quiet circle of loved ones, for quietly keeping company with family and friends, and for keeping quiet company with the Father of us all, in reverent, earnest prayer, in reverent respect. We need more emphasis on the home, which has been said to be "the supreme and most sacred dwelling-place of privacy."¹ Withdrawal from life is not the point or purpose. All of us have obligations to serve, to do, to share our influence and our interest, to be a participating part. Life is enriched by association with others—but also there is the need for peace and privacy, for freedom from intrusion, for personal and private thoughts, for personal and private things, within the hallowed sanctuary of heart and home.

¹Stebelson S. Nulle, "The Life and Times of Privacy," *Western Humanities Review*, Autumn 1956.

²William Faulkner, "On Privacy," *Harper's Magazine*, July 1955.

"The Spoken Word" from Temple Square, presented over KSL and the Columbia Broadcasting System, August 2, 1964. Copyright 1964.

That Still Small Voice

by Elizabeth J. Buckisch

In a sunny kitchen of the parsonage in Alsace, four-year-old Albert looked up from play as his minister-father came in from the garden.

"Papa, could I go with you today?" he begged as he noticed his father getting ready to go out to his beehives. "I have never seen you take the honey from the bees."

Albert knew quite well what this trip meant. For supper the family would have good fresh honey on delicious homemade bread.

"You're too young, Albert. If you move around or make a sound I cannot take the honey from the bees."

"But I'll sit very, very still. I promise, Papa. You will see."

"Very well then, little son, you may come. But remember, you must not get near the bees."

Picking up a dishpan, heavy gloves and a helmet-type hat with a mosquito-net veil to protect his face, the tall young minister and his eager son set out on their great adventure.

While his father put on the gloves and helmet and moved cautiously over to the beehives, Albert sat on an old stool some distance away and watched with interest. He would sit, oh! so still just as he had promised.

In a few minutes a long procession of bees swarmed out of the hive evidently furious that anyone should dare disturb them and their honey. Working gently and speaking softly to the bees, his father loosened a square filled with honey and placed it in the dishpan.

After a while, tired of watching, Albert laughed gleefully as he admired a little

creature that had lighted on his own small fist.

Suddenly he felt a short, sharp, stabbing pain in his hand and let out a shriek. "Papa! Papa!" he screamed. His father dropped everything and ran over to the boy. The household, hearing the loud screams from the far end of the garden, came running out also. His mother, Maria the maid, his older sister, and a younger brother all stood or knelt around him trying to comfort him. Maria kissed the bee-stung hand, his father and mother petted him and Albert felt a great wave of satisfaction come over him. This was interesting—he was the center of all attention.

As suddenly as it had come, the pain stopped. Albert's conscience began to give him little twinges. "That's enough attention now," it seemed to say. "You are not in pain any more." But this was too good an opportunity to waste, so Albert howled right on and got some more petting. But for the rest of the day he felt uncomfortable and couldn't enjoy his play—not from the bee-sting for that had long since stopped hurting—but from that still small voice inside him. He felt he was a fraud. He had

done something dishonorable. The day that had started so happily was ruined.

This little boy grew up to become one of the most famous medical missionaries in the world, Dr. Albert Schweitzer. Dr. Schweitzer is devoting his life to a jungle hospital deep in the African Congo. He has won great renown for his work with the natives, and he has been honored at royal courts by kings and queens and by many other heads of government.

But to this day whenever Dr. Schweitzer feels he is trading on people's sympathies, whenever he is tempted to exaggerate or to get undeserved praise he says to himself, "Remember the bee!"

* * * * *

図 書 案 内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	上質革製合本	1 1 0 0 円
教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経	合本	3 0 0 円
モルモン経	(新訳)	3 0 0 円
信仰箇条の研究		3 3 0 円
モルモンとは? (新版)		1 5 0 円
総合聖句の手引		1 5 0 円
日本系図探究要覧		1 0 0 円
アロン神権者用学科課程		1 5 0 円
メルケゼデク神権、教師と生徒用 「モルモン経の読み方の手引」		2 0 0 円
ナザレのイエス		1 0 0 円
正しい日本史		1 0 0 円
家督権の祝福		1 0 0 円
料理の作り方		5 0 円
求道者教育法		1 2 0 円
神の王国		2 3 0 円
基督・イエス		3 0 0 円

日曜学校用

モルモン経物語	1 5 0 円
旧約聖書物語	1 5 0 円
家族の昇栄	2 0 0 円
福音の実践	2 0 0 円
奇しきみわざ(上)(下)	2 0 0 円
我等の標準聖典	2 0 0 円
古代の使徒	1 5 0 円
シオン山の救い手たち	2 0 0 円
教義と聖約の教え	2 0 0 円

M I A 用

我ら指導者のことば	2 0 0 円
我らは信じる	2 0 0 円
我らは生きる	1 2 0 円
我らは奉仕する (1966年度テキスト)	1 5 0 円
生活の目標	1 5 0 円
今日の十誡	2 5 0 円
M I A・エンサイン・ローレルの手引	1 5 0 円
演説が上手になる法	1 5 0 円
素晴らしい考え (1966年度テキスト)	2 0 0 円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌 (新版)	4 0 0 円
レクリエーション歌集	4 0 0 円

注文は各支部長へ

THE SEITO NO MICH

Volume 9, October 1965, Number 10

THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS NORTHERN FAR EAST MISSION

TEL (473) 1613. 14 Azabuhiroro-cho Minato-ku Tokyo Japan

支 部 所 在 地

北海道地方部	旭川市八条五丁目 MIA集會場 旭川公会堂 電話(二一五四五)
室蘭	室蘭市幸町八九 電話(七〇五四)
小樽	小樽市富岡町一ノ三五 電話(二一八二二四)
札幌	札幌市北二条西二丁目 電話(六三一七八六六)
東中央地方部	高崎市並榎町二七五 電話(二一七一二一)
群馬	甲府市山田町六三 松本市鷹匠町二六九 新潟市中央大畑町五五七 電話(二一八六六〇)
仙台	仙台市光禪寺通り二八 電話(二五〇八九七)
東京中央	東京都港区青山北町六ノ三四 電話(四〇八三三〇七)
東京北	東京都中野区江原町一ノ八ノ十四 電話(九五二)一五三一
東京東	東京都江川区小岩町六〇七八〇 電話(六五七一五二三)
東京南	東京都大田区南千束町二四九 電話(七二九一六三一)
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町一ノ七 電話(二一六七六四)

山 形 市

山形市七日町四丁目十二ノ二十三
横浜市港北区篠原町二九
電話(四九一八七七二)

西 中 央 地 方 部

大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話(六二一一八三七七)

福 岡

福岡市浄水町四六
電話(五二一八六五三)

広 島

広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話(三一六一三五)

金 沢

金沢市上胡桃町一一
電話(七三二四二一〇)

京 都

京都市左京区下鴨松原町四四
名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話(五一一〇一四一)

西 ノ 宮

兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話(五一一〇一四一)

岡 山

大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話(二一一三三六)

三 ノ 宮

岡山市北方七〇
神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話(八六一二六〇二)

柳 井

山口県柳井市今市三九一

沖 縄 地 方 部

沖縄宜野湾市野嵩区三三八
沖縄那覇市松尾区一三九

普 天 間

東京都港区青山北町六ノ三四
電話(四〇二一四〇一〇)

那 覇

建築部事務所

聖 徒 の 道

1965年10月1日発行

振替口座 東京 16226 番

発行人兼編集人 アドニー・小松義雄

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部

東京都港区麻布広尾町 14 (473) 1613

印刷所 合名会社 三五堂